



2016年3月期 第1四半期

決算説明会

2015年8月6日

免責事項

本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている当社および当社グループ以外の企業などにかかわる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

本資料中のスプリント・コーポレーション（以下「スプリント」）に関するいかなる記載も、当社がスプリントに対する投資家としての立場から行っているものに過ぎず、スプリントを代理して、又はスプリントのために行われたものではありません。本資料中のスプリントに関するいかなる情報も、スプリント自体が今後行うあらゆる開示に服します。スプリント及び当社はいずれも、スプリントが今後行う開示に関連して、又は今後発生する事象を反映するために、本資料中の情報を更新する義務を負いません。本資料におけるいかなる記載も、スプリントが自ら開示等を行う義務を構成するものとして解釈されてはならないものとしします。

必ず改善してみせる

Sprint



連結業績

連結業績

(億円)

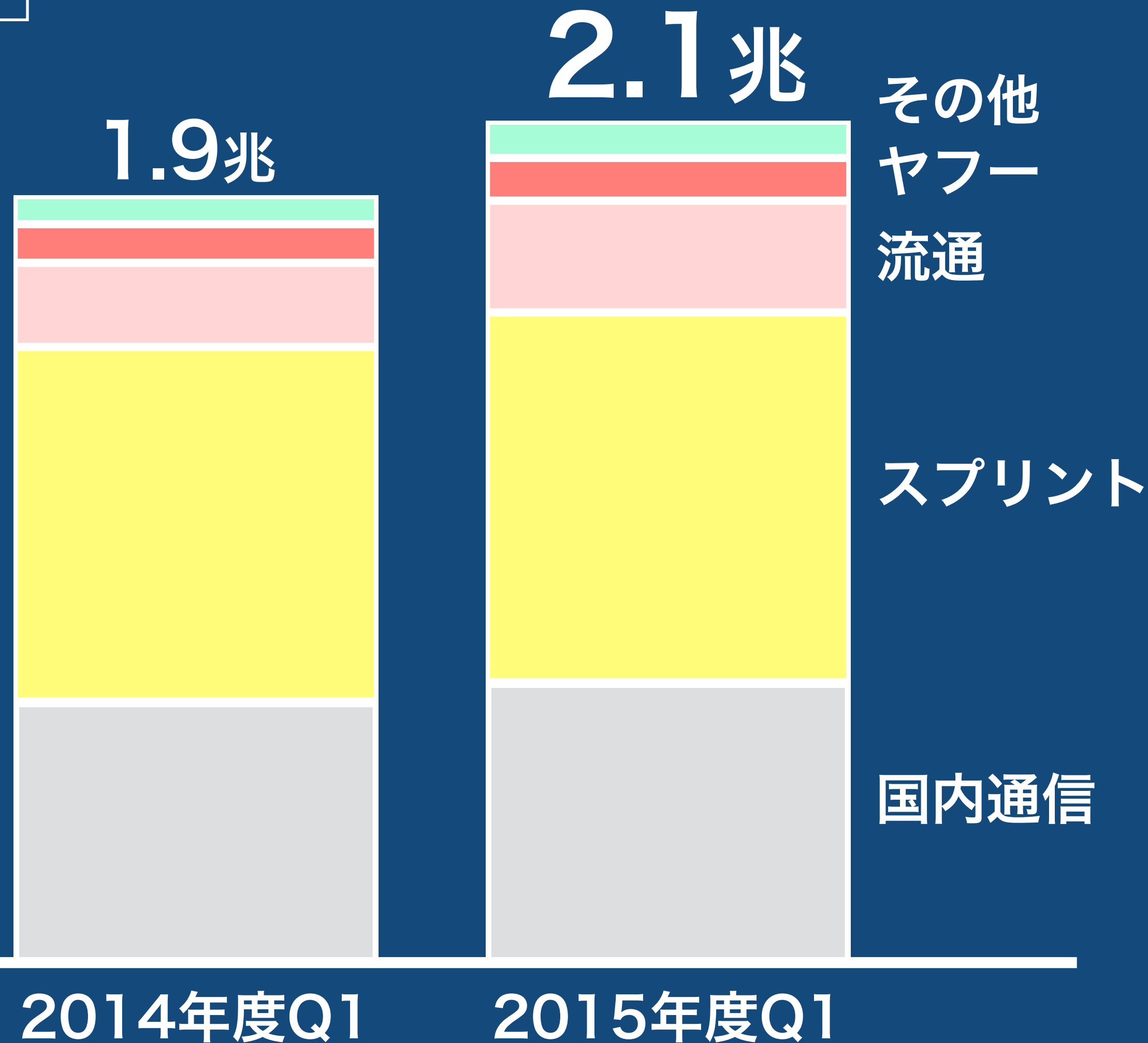
	2014年度Q1	2015年度Q1	増減額	増減率
売上高	19,483	21,391	+1,908	+10%
EBITDA	5,670	6,591	+921	+16%
営業利益	3,194	3,436	+242	+8%
当期純利益	776	2,134	+1,358	+175%

*ガンホーによる損益は非継続事業からの純損益に分類(2014年度、2015年4月1日～6月1日まで)

*当期純利益：親会社の所有者に帰属する純利益

売上高

円

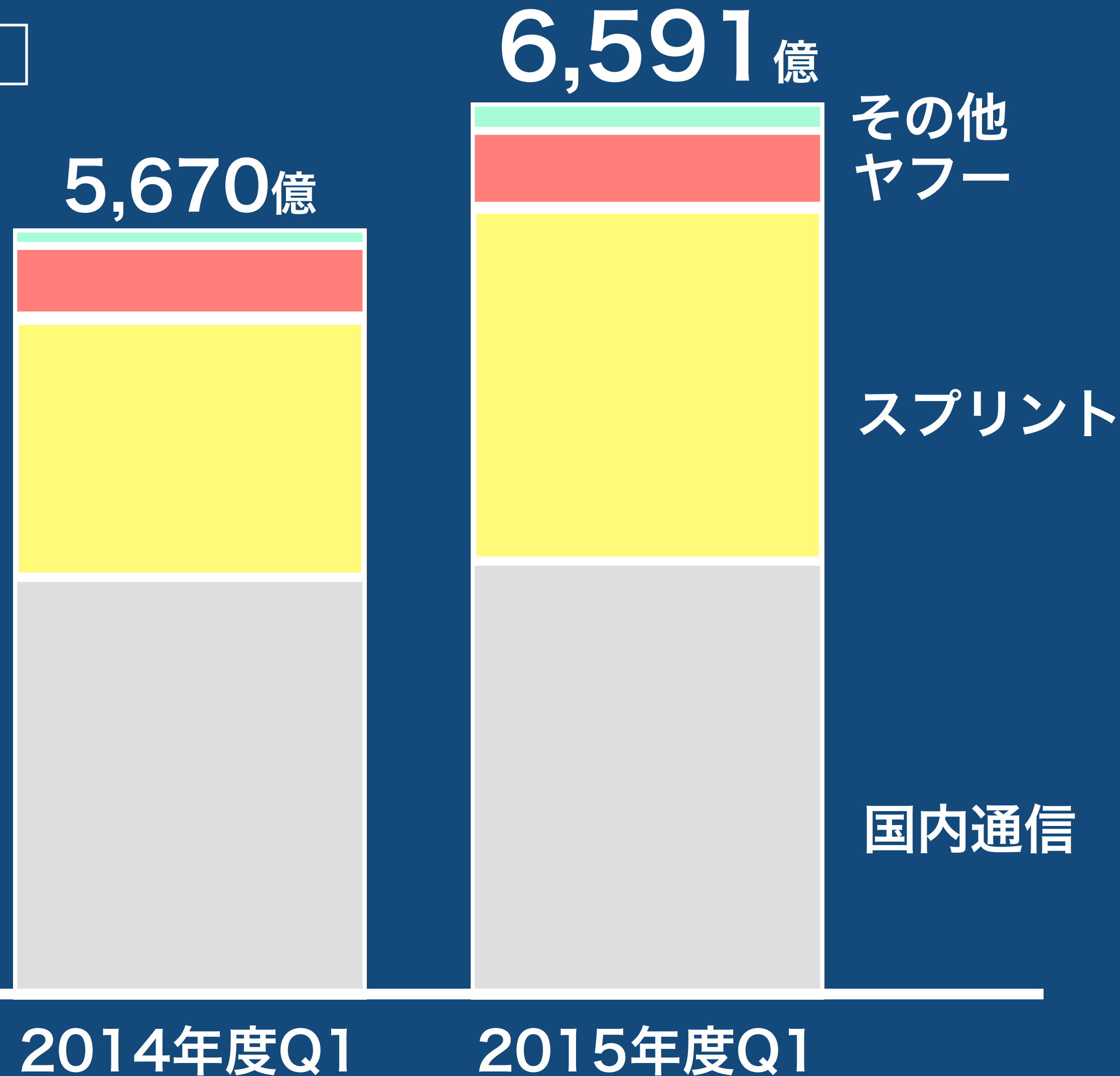


- ▶ 10%増
- ▶ 国内通信：物販売上の増加
- ▶ スプリント：為替の影響

(為替レート)
2014年4~6月：102.14円 / USD
2015年4~6月：121.34円 / USD

EBITDA

円



▶ 16%増

▶ 国内通信・スプリントが貢献

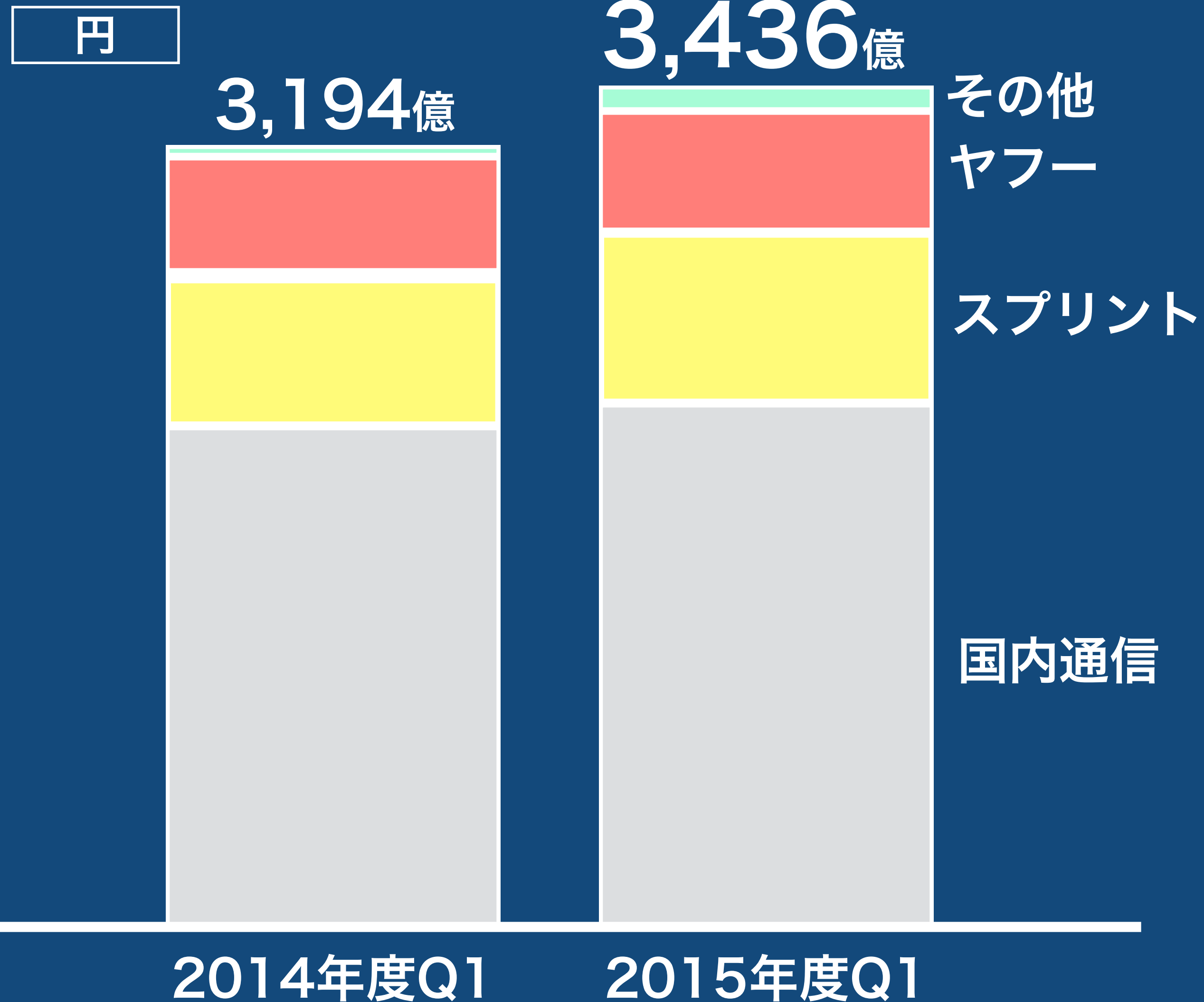
▶ スプリント：
・ 為替の影響
・ 商品原価の改善
・ サービス費用の削減

(為替レート)

2014年4~6月：102.14円 / USD

2015年4~6月：121.34円 / USD

営業利益



▶ 8%増

▶ 国内通信・スプリントが貢献

(為替レート)

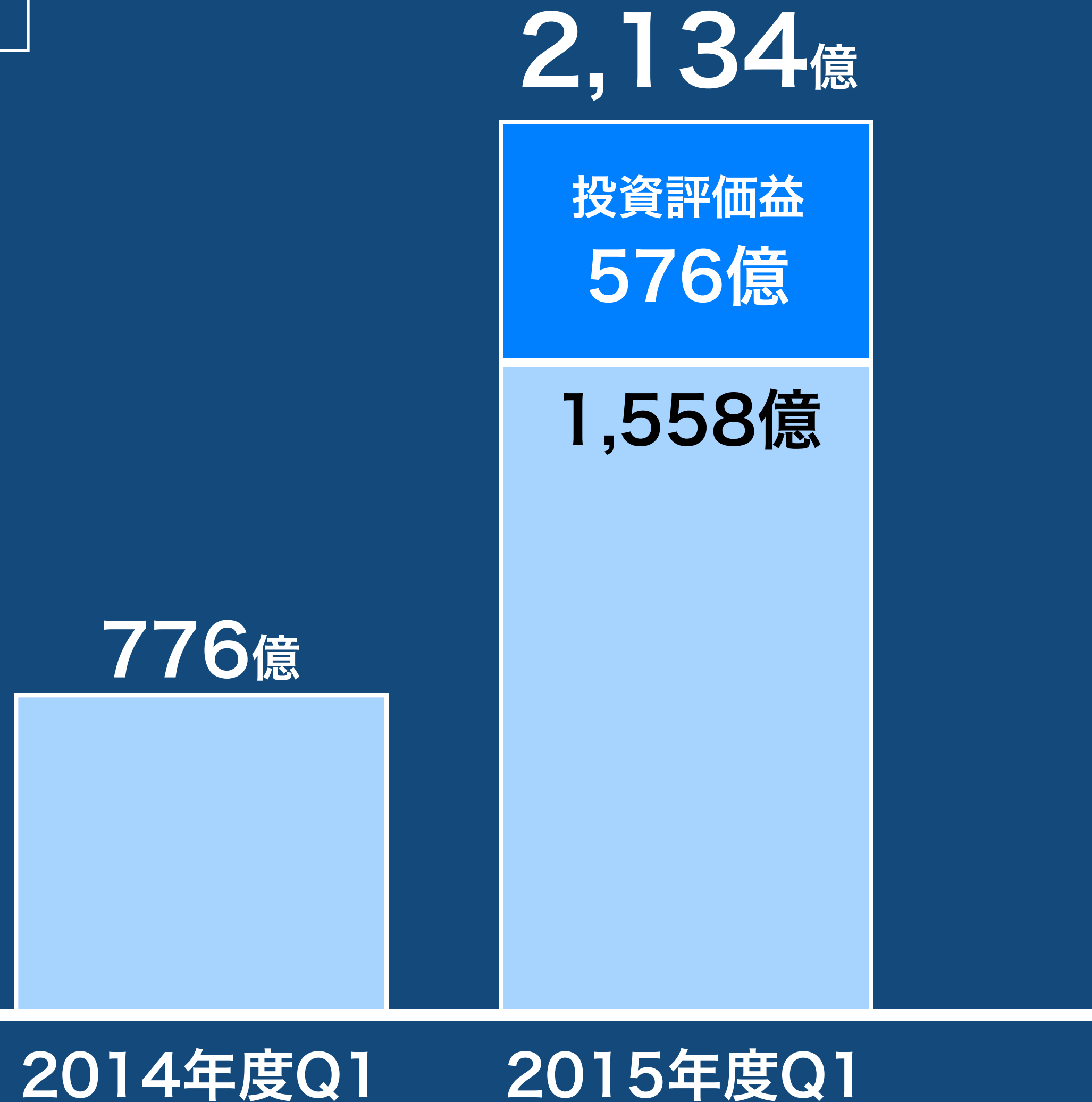
2014年4~6月：102.14円 / USD

2015年4~6月：121.34円 / USD

純利益

(親会社の所有者に帰属する純利益)

円



- ▶ 175%増 (2.8倍)
- ▶ 投資評価益 (576億)
- ▶ アリババ持分法利益(434億)

* 投資評価益：FVTPL(Fair Value Through Profit or Loss)の金融資産から生じる利益
(主にSnapdealを運営するJasper Infotech Private Limited、
Olaを運営するANI Technologies Pvt. Ltd.の優先株式)

* 投資評価益およびアリババ持分法利益には税効果を認識。現金の支出を伴わない。

* ガンホーによる損益は非継続事業からの純損益に分類(2014年度、2015年4月1日～6月1日まで)

国内通信事業

SoftBank
ソフトバンクモバイル

SoftBank
ソフトバンクBB

SoftBank
ソフトバンクテレコム

Y!mobile
ワイモバイル

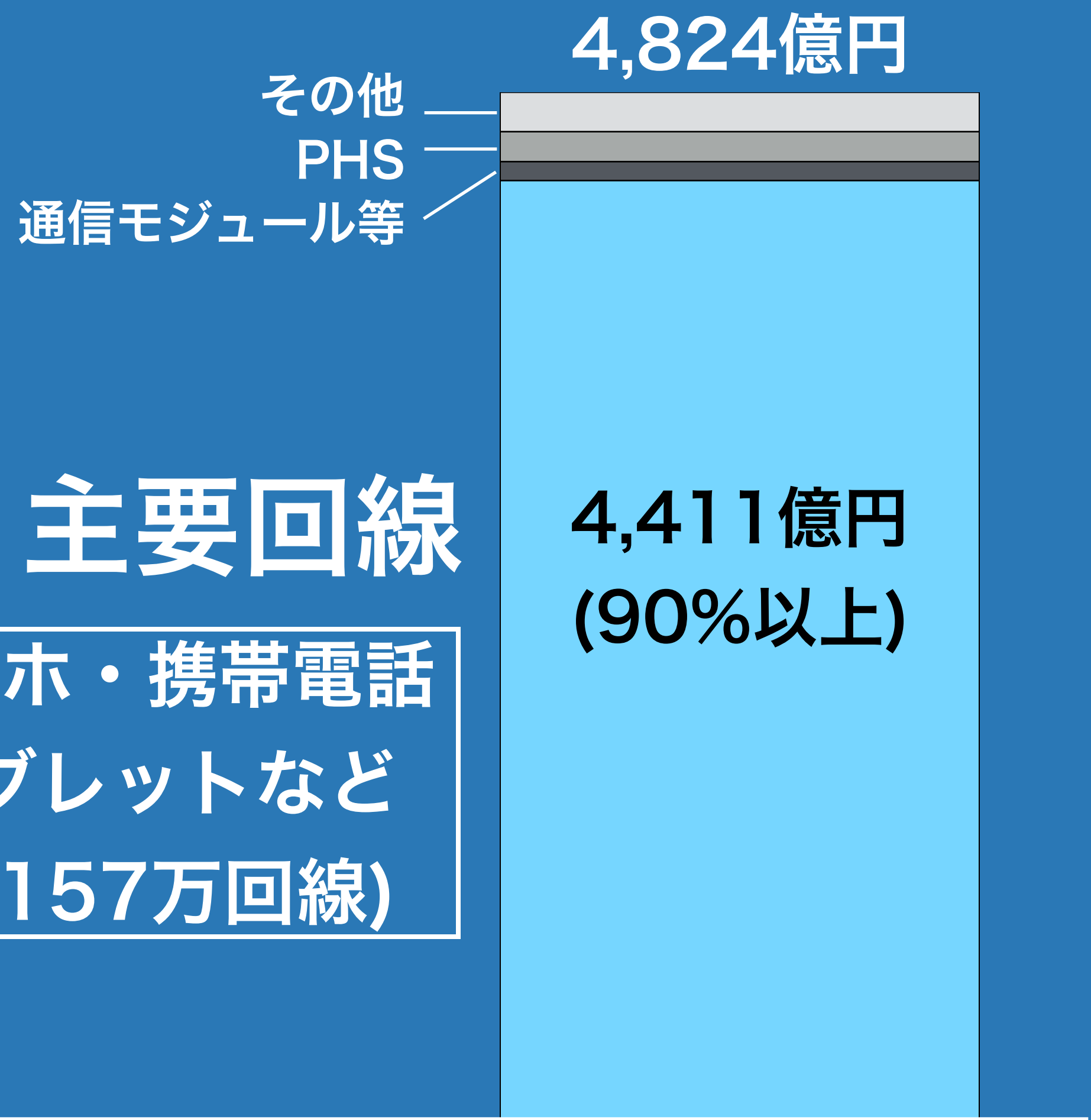
経営統合

ソフトバンク(株)

モバイルインターネット

No.1コア企業へ

- ▶ 成長戦略の強化
- ▶ 経営効率化



スマホ・携帯電話
タブレットなど
(3,157万回線)

- ▶ 主要回線に注力
- ▶ スマホ純増と解約率低減へ

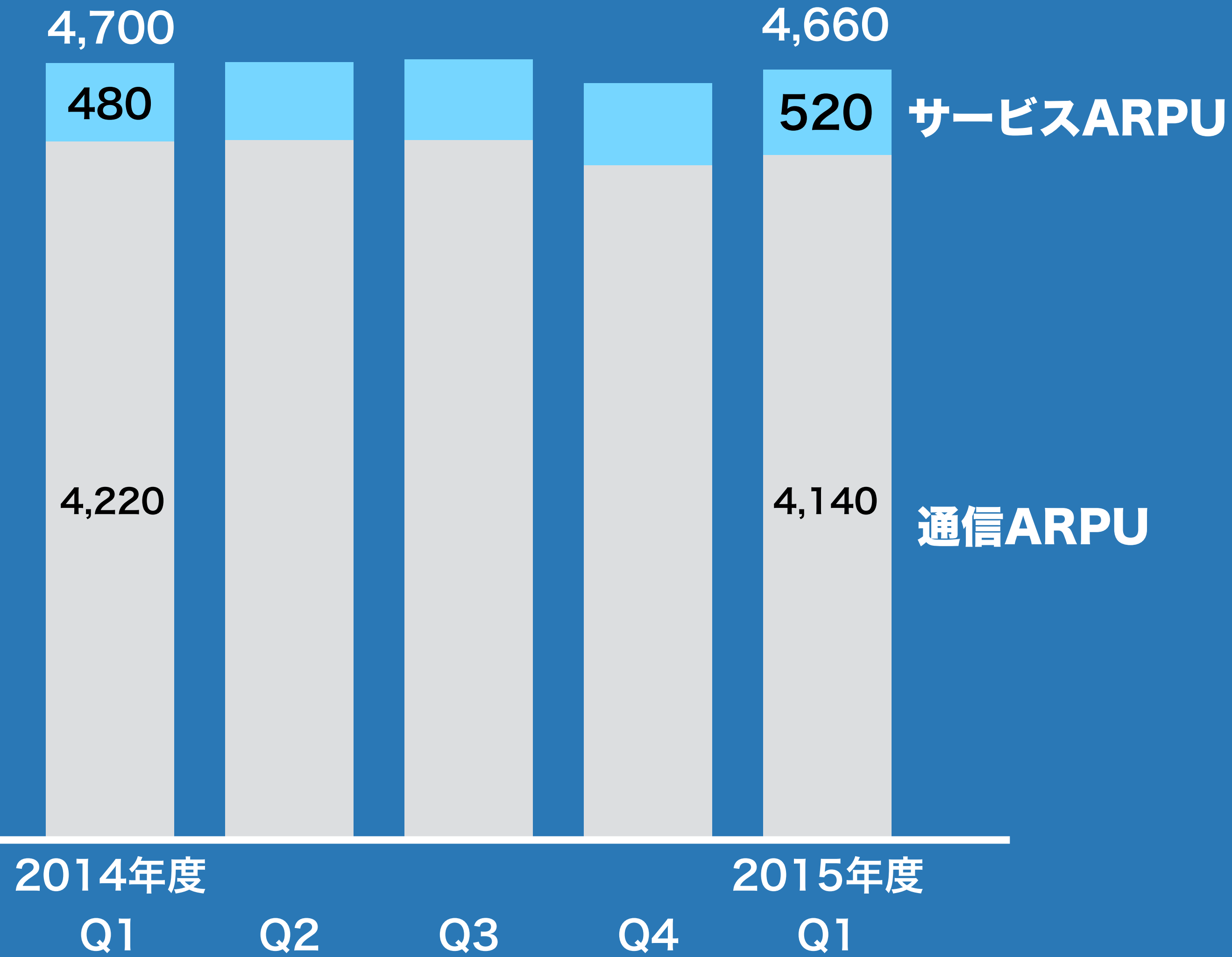
2015年度Q1

主要回線：スマートフォン、従来型携帯電話、タブレット、モバイルデータ通信端末。
通信モジュール等：通信モジュール、みまもりケータイ、プリペイド式携帯電話など。
PHS回線を利用した通信モジュールは、PHSに含まれる。

SoftBank

ARPU (主要回線)

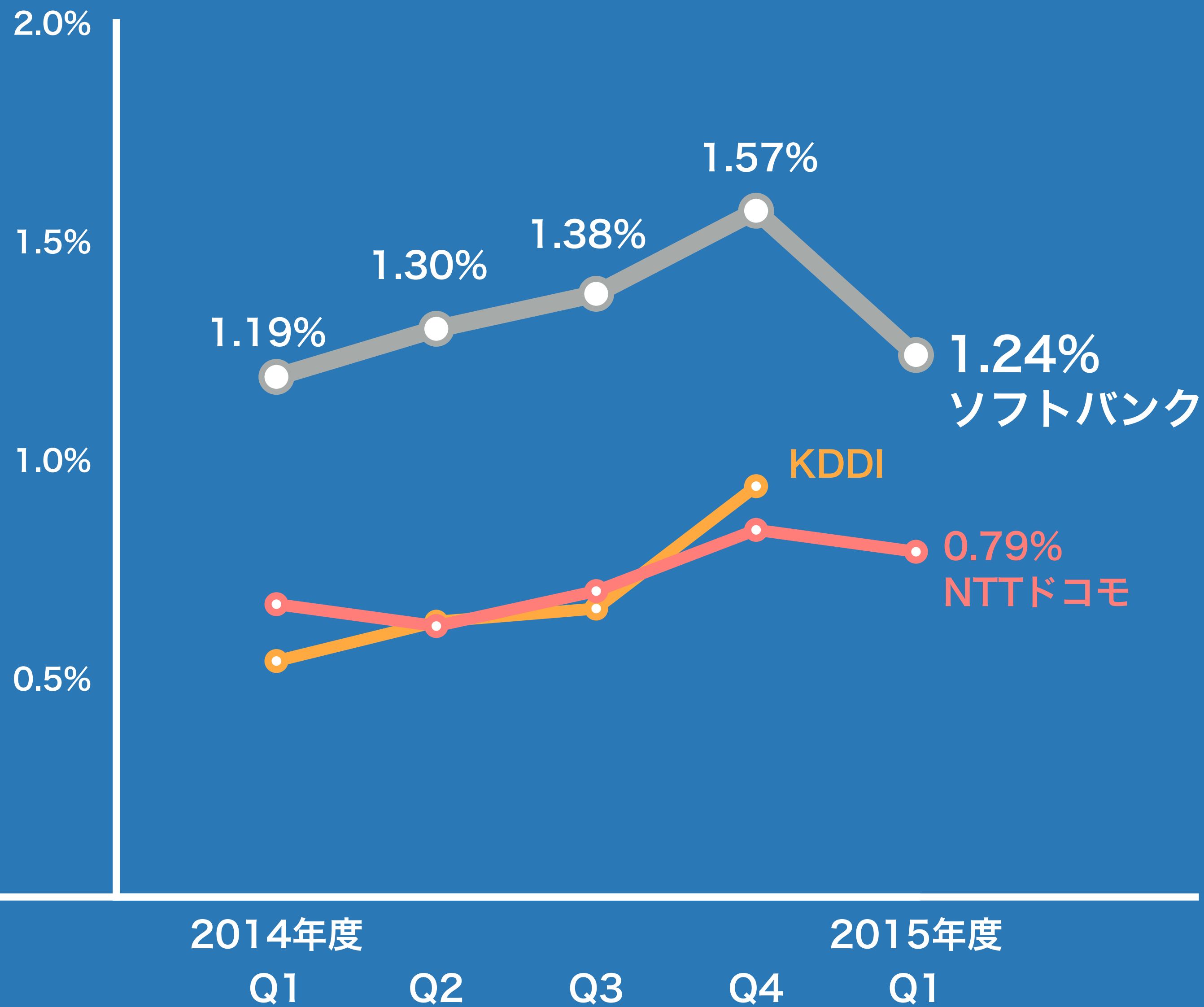
円



- ▶ サービスARPU最大化へ
- ▶ ヤフーとの連携強化
- ▶ 成長領域を開拓

SoftBank

解約率 (主要回線)

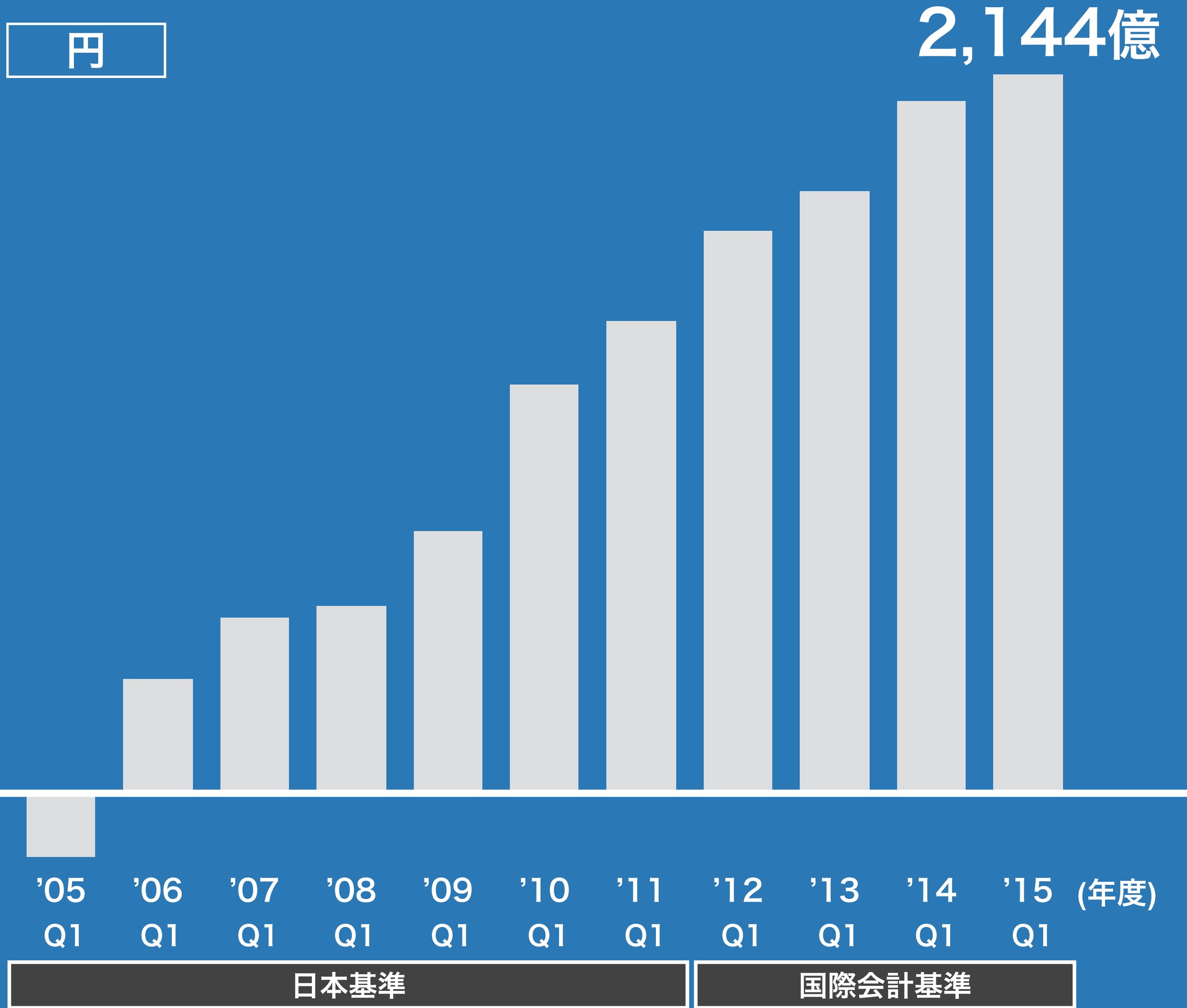


▶ 他社より高い水準

▶ あらゆる観点から改善へ

円

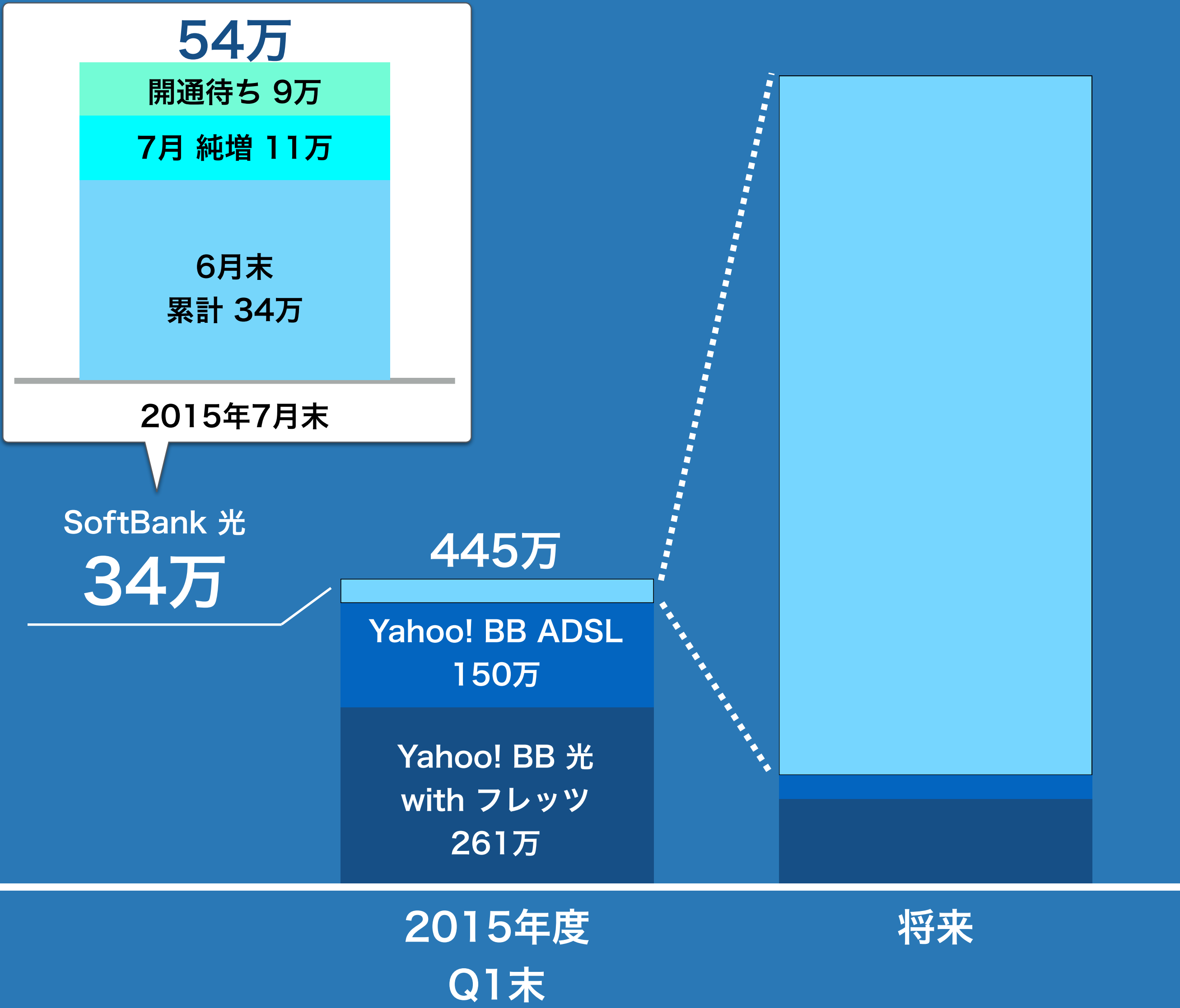
2,144億



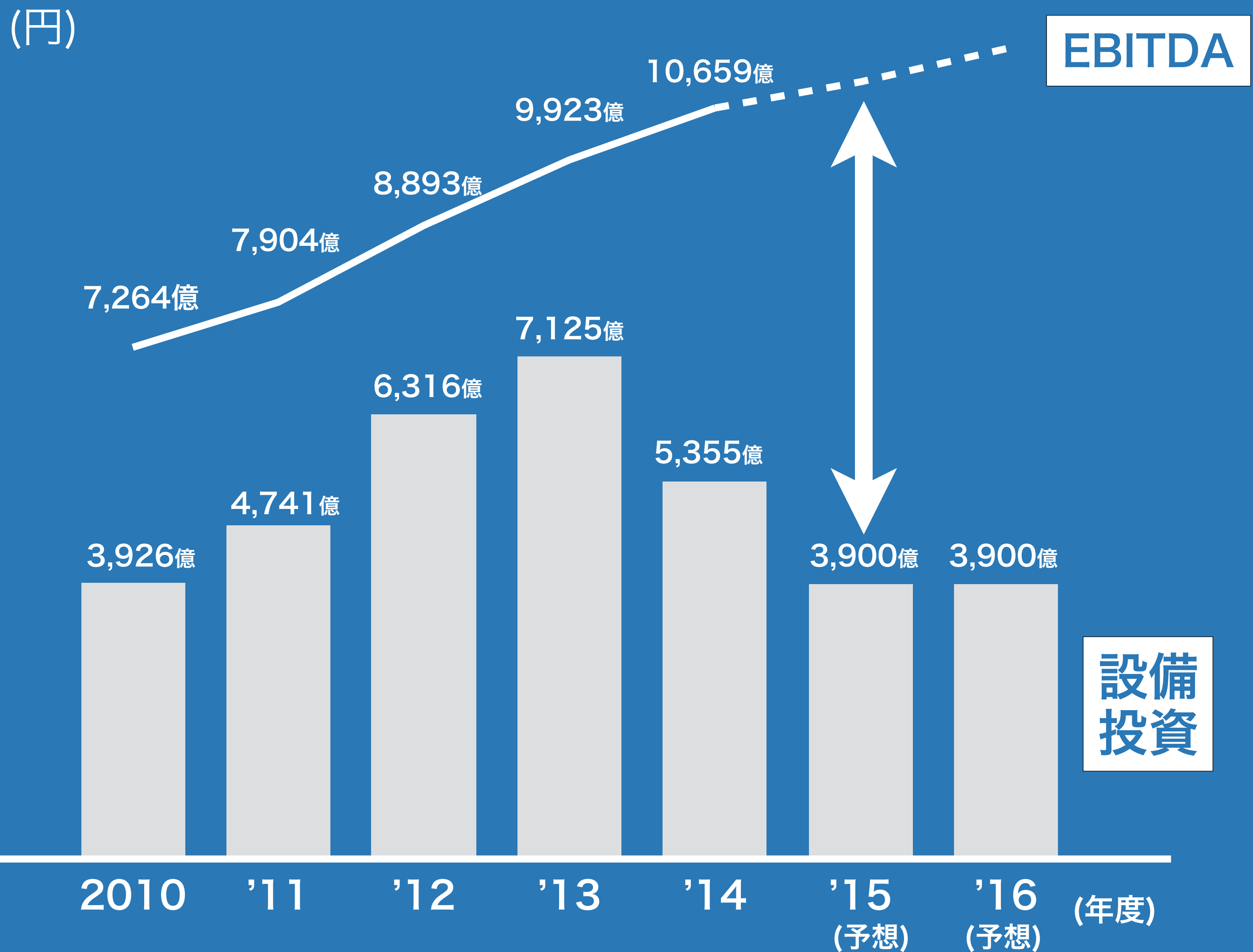
- ▶ 収益性重視
- ▶ スマホユーザーの獲得
- ▶ コスト効率化

2014年度以降：国内通信事業
 2013年度以前：移動通信事業 + 固定通信事業 + ブロードバンド・インフラ事業
 ※2013年度はガンホー、コマース&サービスの影響を除く

SoftBank ブロードバンドサービス 契約数



- ▶ SoftBank 光 54万回線 (7月末)
- ▶ 光BBを成長ドライバーへ



日本基準

国際会計基準

- ▶ EBITDAは15年度も増加の見込み
- ▶ 設備投資はピークアウト
- ▶ FCF創出へ

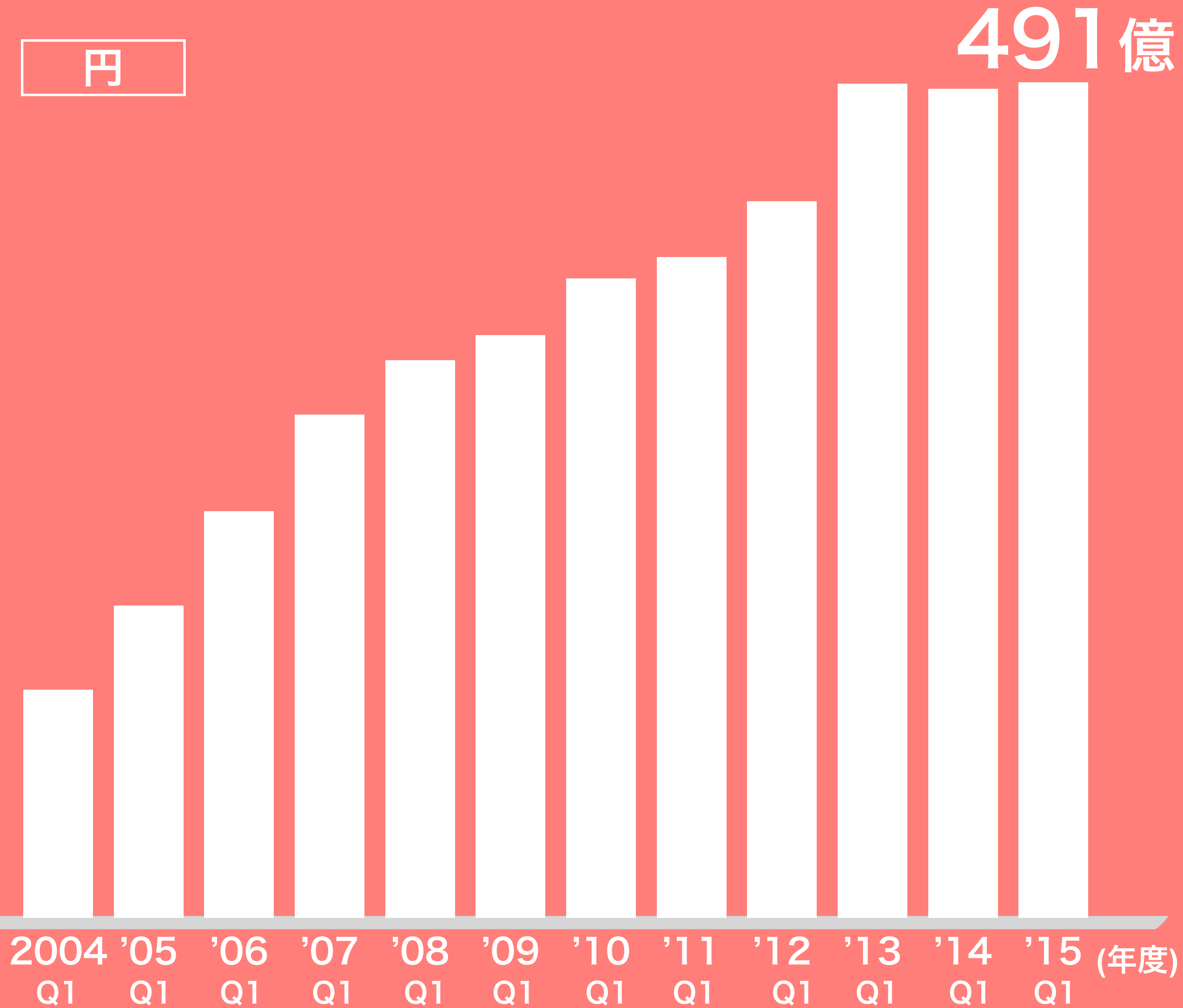
※日本基準：旧ソフトバンクモバイル、ソフトバンクテレコム、ソフトバンクBBの設備投資
 IFRS：現ソフトバンク株式会社(旧ソフトバンクモバイル、ワイモバイル、ソフトバンクテレコム、ソフトバンクBB)およびWireless City Planningの設備投資
 ※法人向けモバイルレンタル端末を除く

インターネット企業の状況

営業利益

円

491億



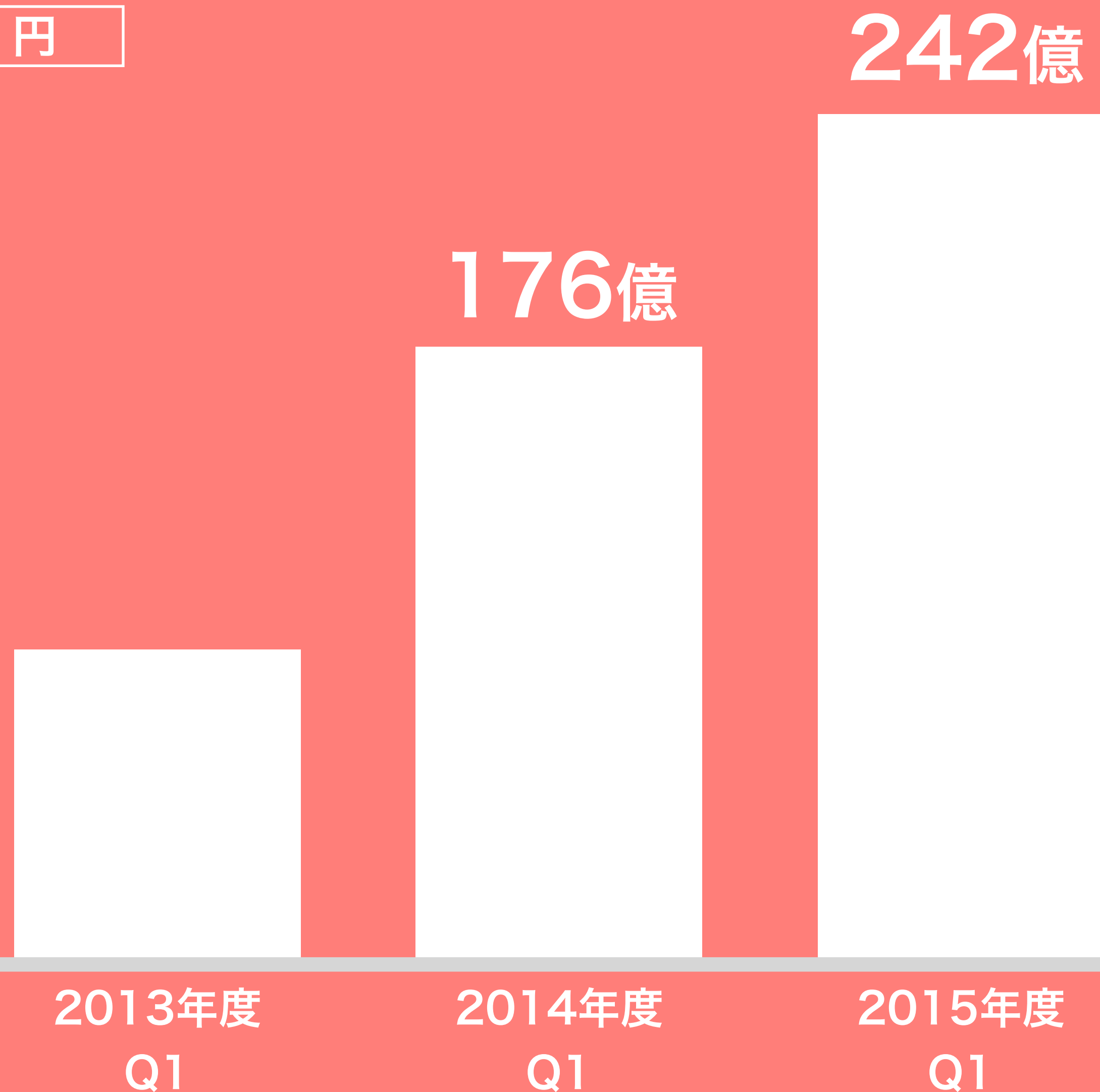
日本基準

国際会計基準

- ▶ ビジネスモデルを変革
- ▶ モバイル重視の戦略
- ▶ アリババと連携

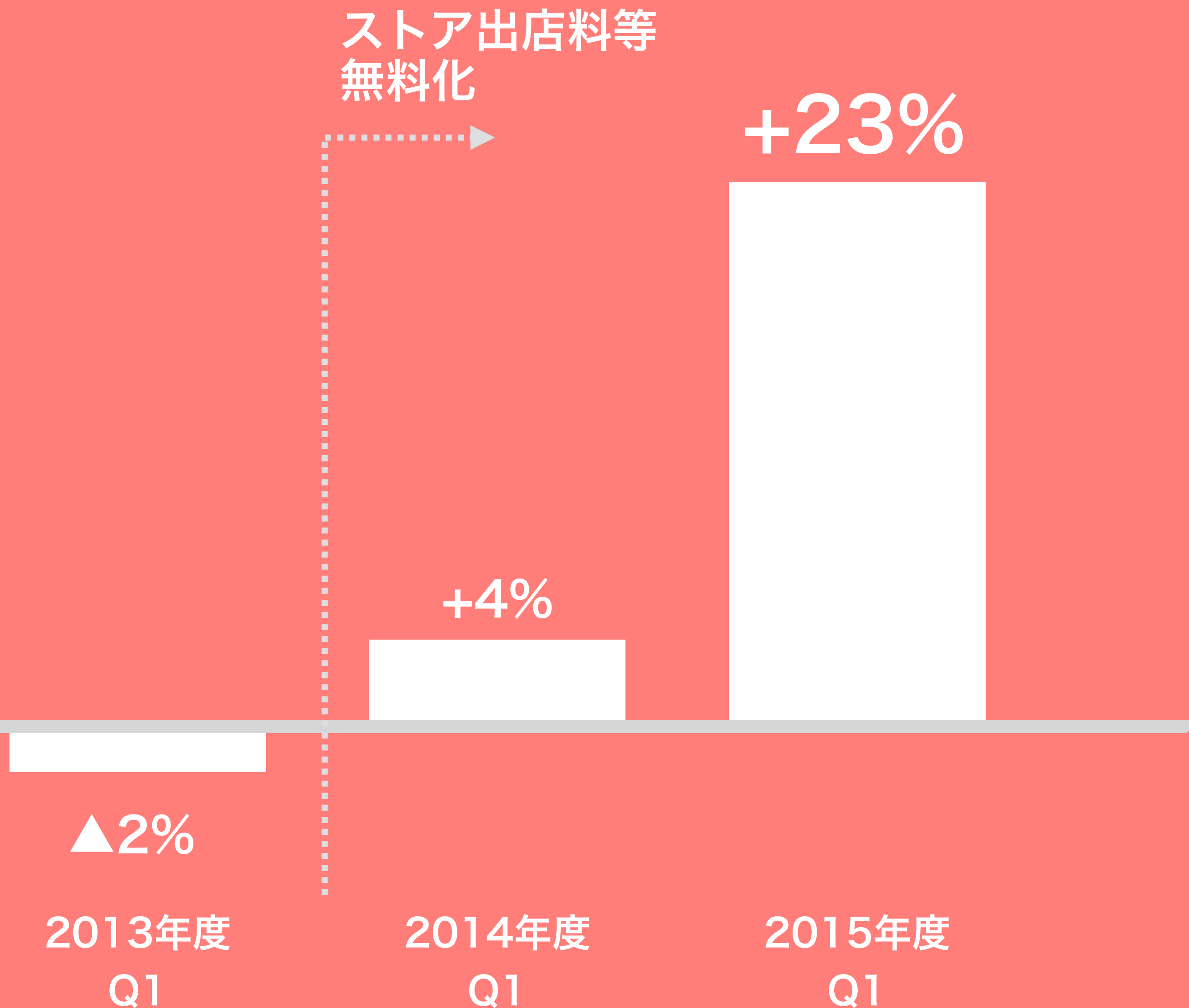
スマホ広告売上

円



- ▶ 前年比38%増
- ▶ トップページをタイムライン化
- ▶ 新広告商品の掲載で売上拡大へ

ショッピング事業取扱高 (前年比成長率)



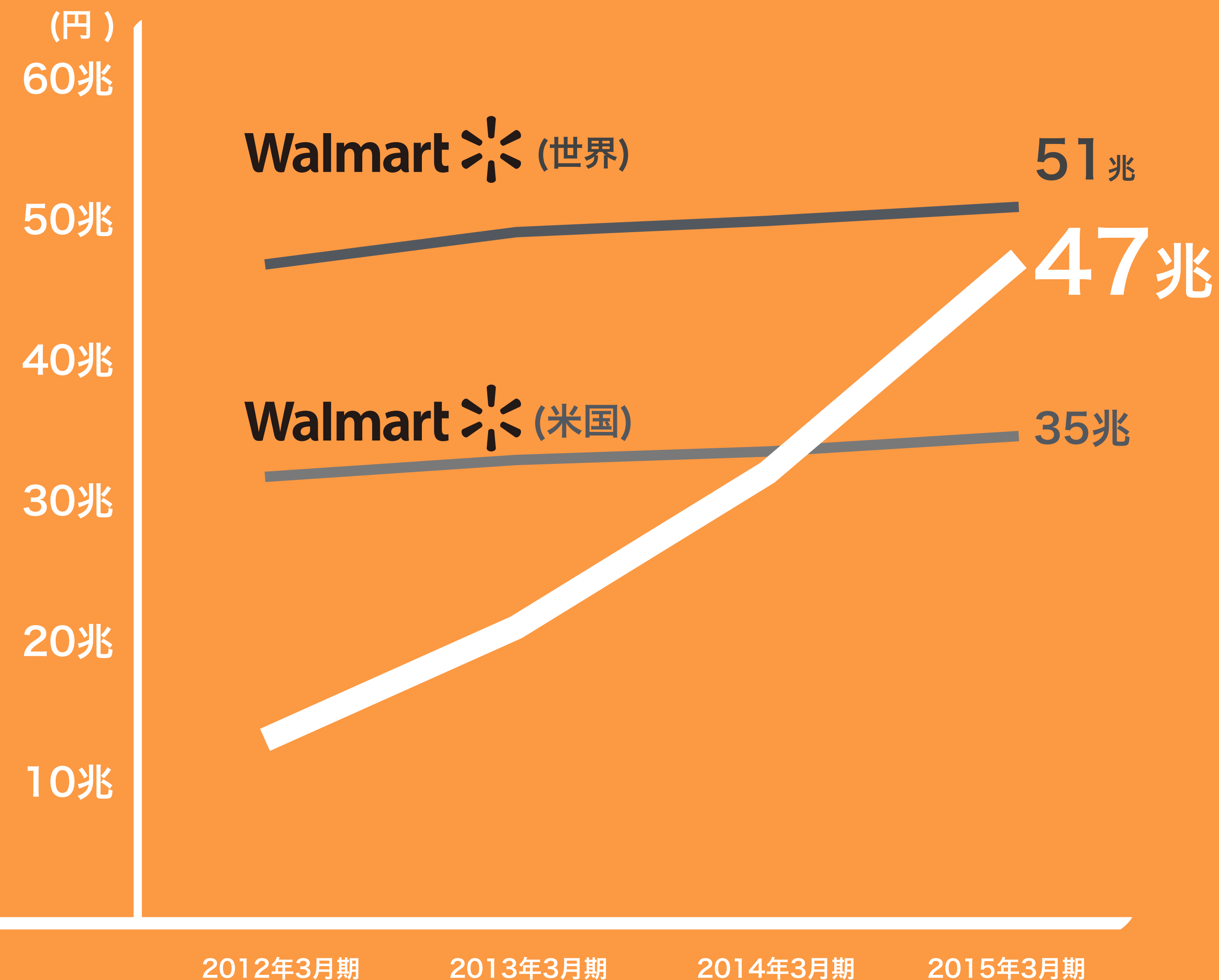
- ▶ 前年比23%増
- ▶ eコマース新戦略が奏功

アプリ売上ランキング

1		Clash of Clans	Supercell
2		モンスターストライク	Mixi/Tencent
3		パズル&ドラゴンズ	ガンホー
4		Game of War - Fire Age	Machine Zone
5		梦幻西游	NetEase
6		Candy Crush Saga	King/Tencent
7		Boom Beach	Supercell
8		Candy Crush Soda Saga	King
9		白猫プロジェクト	COLPL/Sony/Gumi
10		全民奇迹	OurPalm/Kunlun Games/ Webzen

- ▶ 既存ゲーム価値の最大化
- ▶ 魅力的な新ゲームの創造
- ▶ 顧客基盤を世界に拡大

取扱高

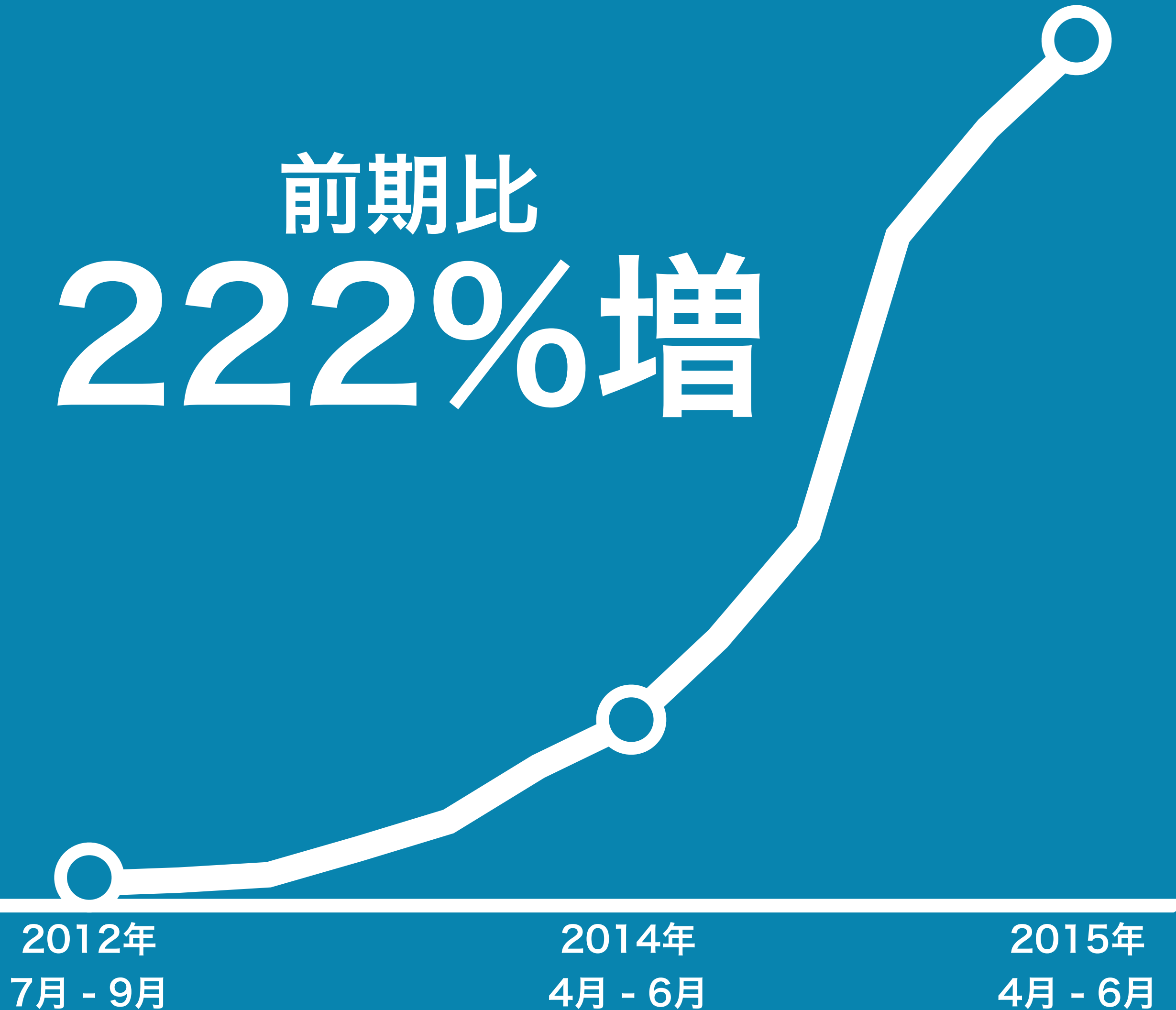


- ▶ エコシステムを強化
- ▶ モバイルに集中
- ▶ 国境をまたぐ取引を拡大

(出所) Alibaba 開示資料を基に当社作成 1ドル = 120円で換算、1USD = 6.2RMBで換算
 Walmart(全世界): Walmart U.S およびWalmart InternationalのNet Sales
 Walmartは各年1月期決算

取扱高

前期比
222%増



- ▶ 取扱高がさらに拡大
- ▶ 売り手の数が10万を突破
- ▶ 5月に過去最高を達成

取扱高

(ドル)

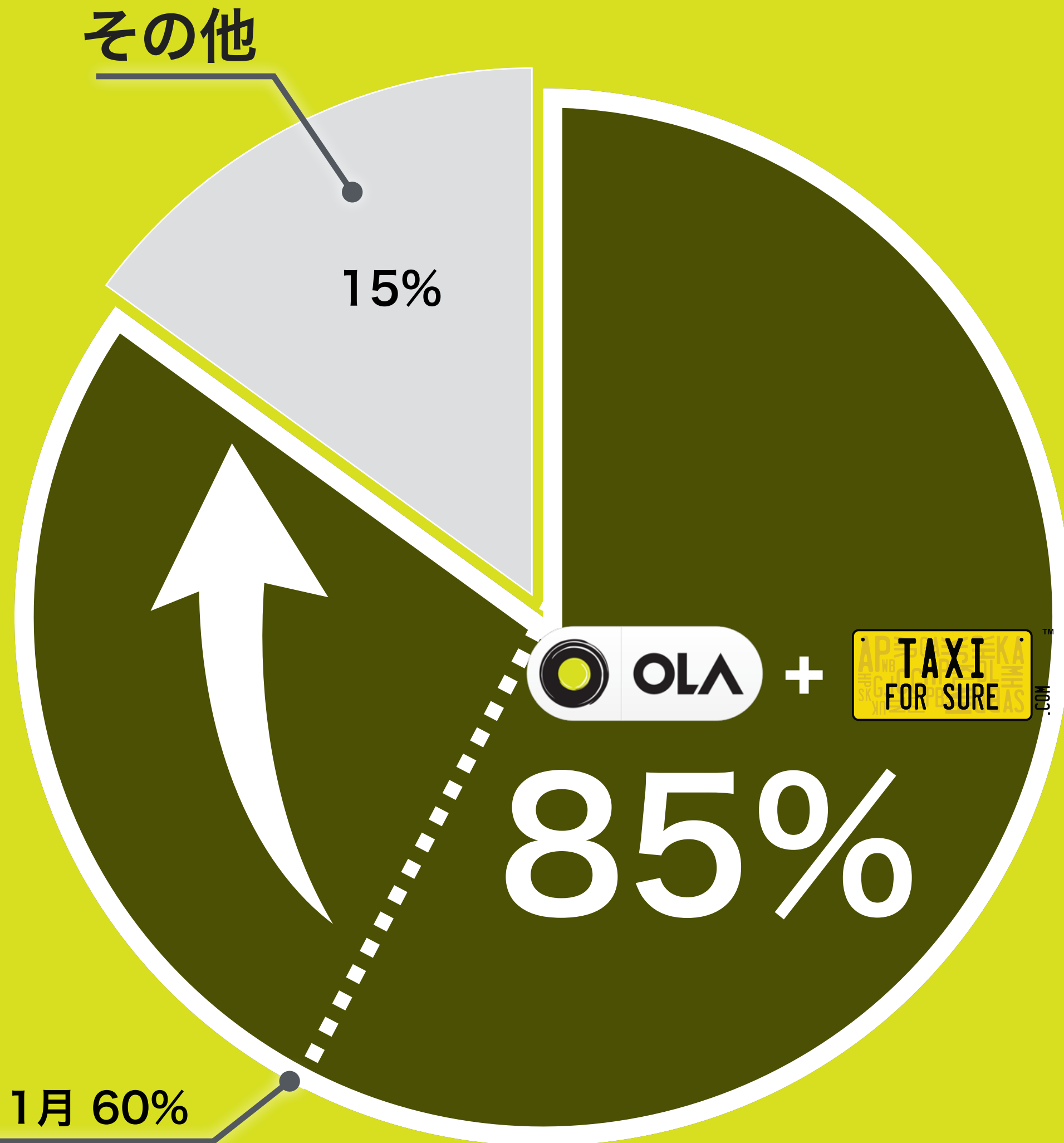
23億ドル

2011 Q1
(直近12ヶ月)

2015 Q2
(直近12ヶ月)

- ▶ 新規顧客が増加
- ▶ 顧客の支払額が成長
- ▶ モバイルコマースが拡大

マーケットシェア(インド)



- ▶ シェアがさらに拡大
- ▶ 投資後に登録車数が6倍
- ▶ アルン・サリーン^{*}氏が独立役員に

(注) マーケットシェアは2015年6月末時点

* Vodafoneグループ 前グローバルCEO

予約数



- ▶ 急速に成長
- ▶ 新サービスを積極拡大



乗車数

3倍

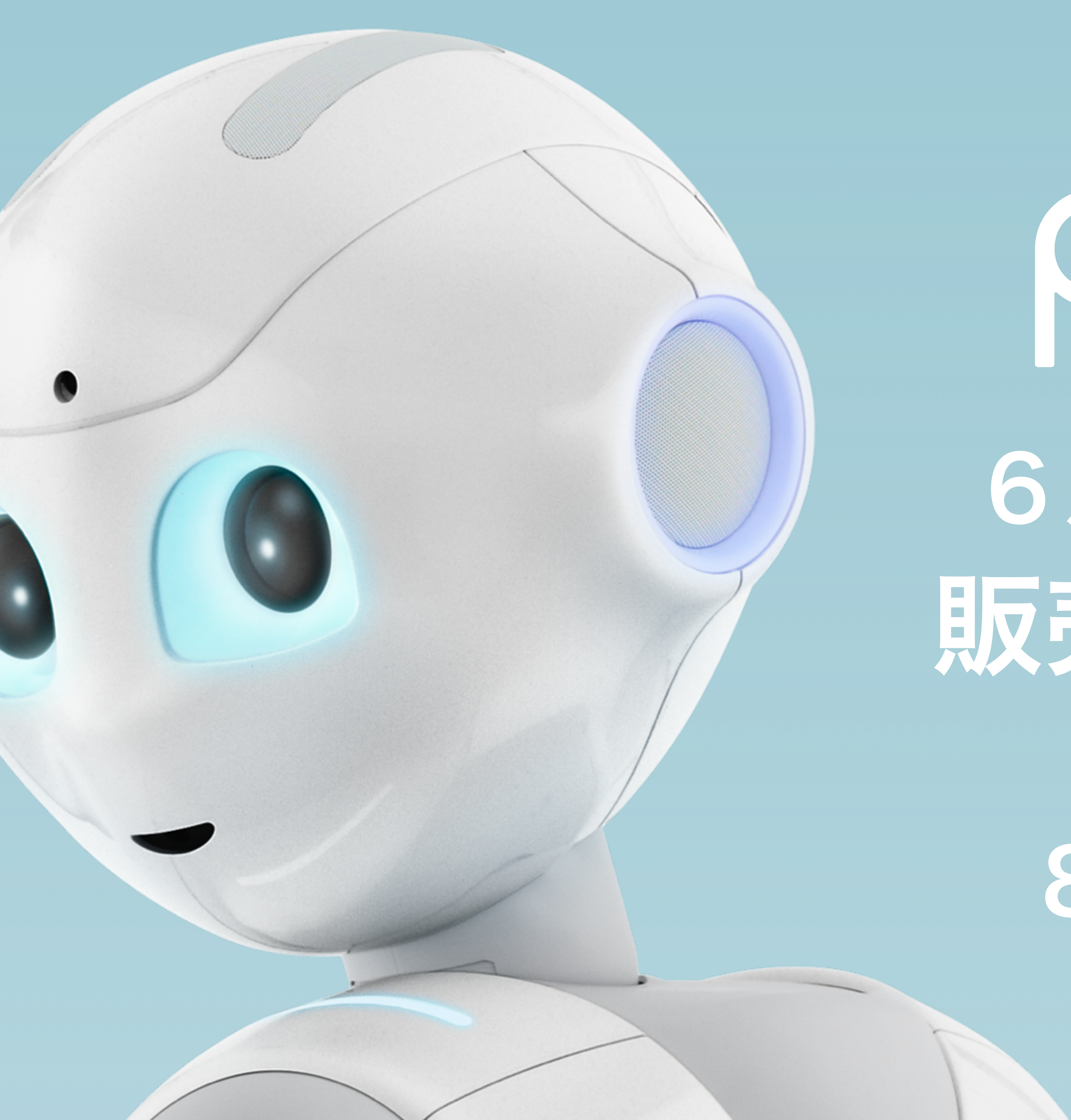


2014年
6月

2015年
6月

- ▶ 中国オンデマンドプラットフォームを先導
- ▶ アリババ、テンセントから戦略的支援を獲得
- ▶ 大きな成長余地

pepper



pepper

6月分・7月分ともに
販売開始1分で完売
(各1,000台)

8月29日 次回発売

MIZUHO × SoftBank Robotics

待ち時間に楽しさや
役立つ情報を提供

2015年7月より開始

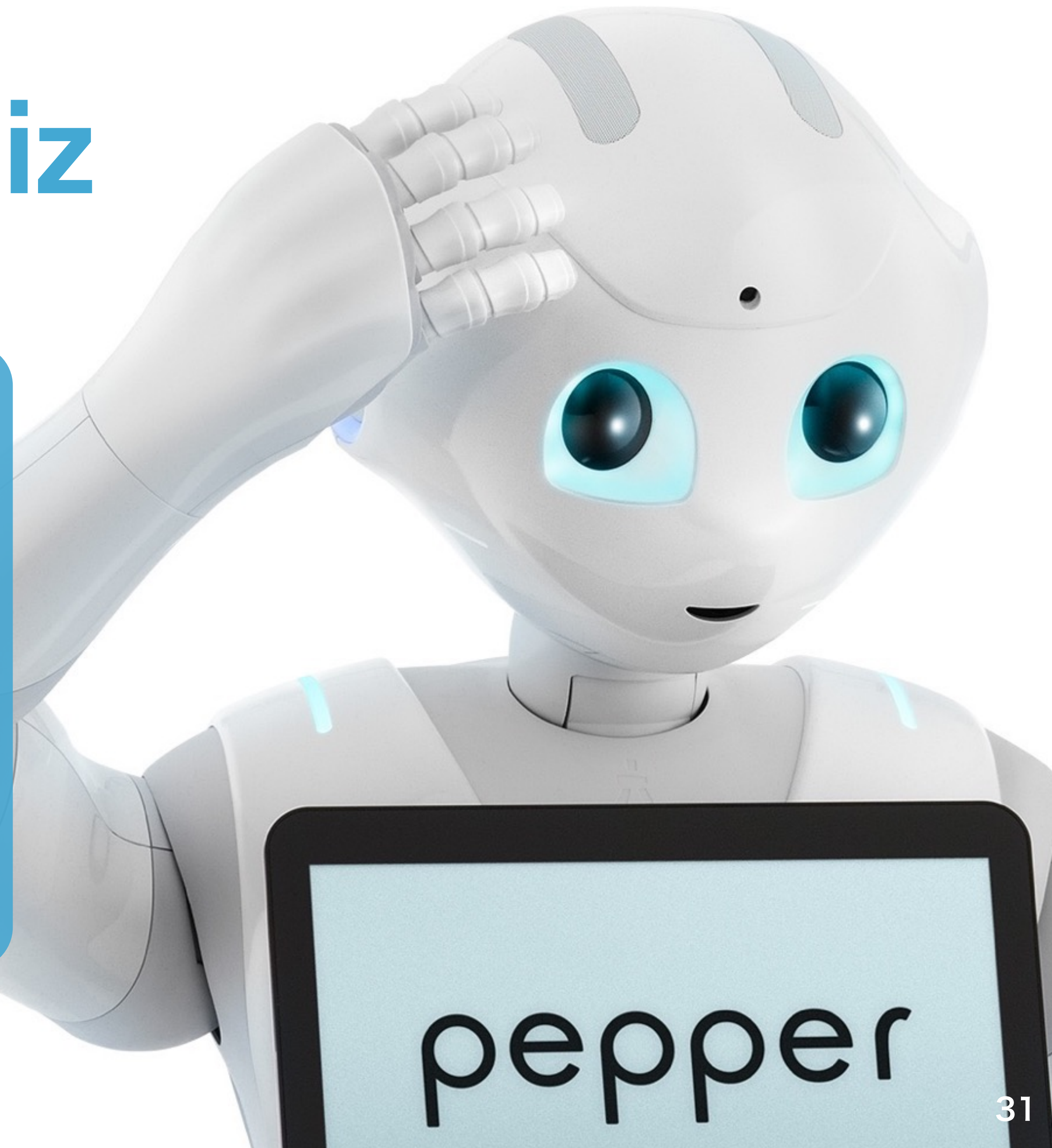
MIZUHO



pepper for Biz

月給
5.5万円

2015年10月1日より申込受付開始



*36ヶ月契約(計198万円) 契約期間終了後、本体は返却いただきます

pepper

14年前

通信事業に参入



YAHOO! BB
JAPAN Broadband

2001



vodafone

2006

モバイル営業利益

円

SoftBank

6,950億

急速に成長

760億

2003 '04 '05 '06 '07 '08 '09 '10 '11 '12 '13 '14 (年度)

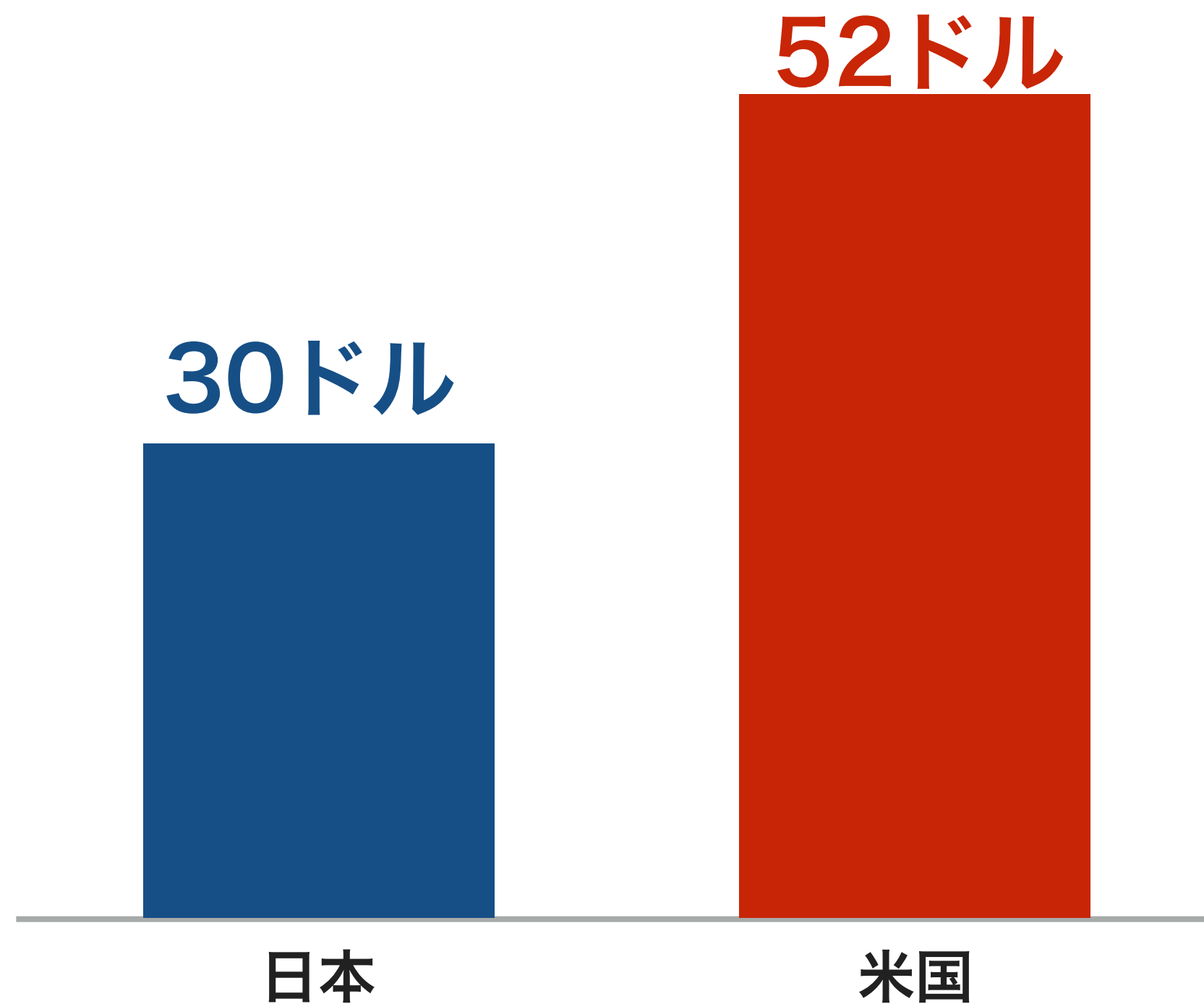
Sprint  Studio

3年前

さらなる成長を求めて米国へ

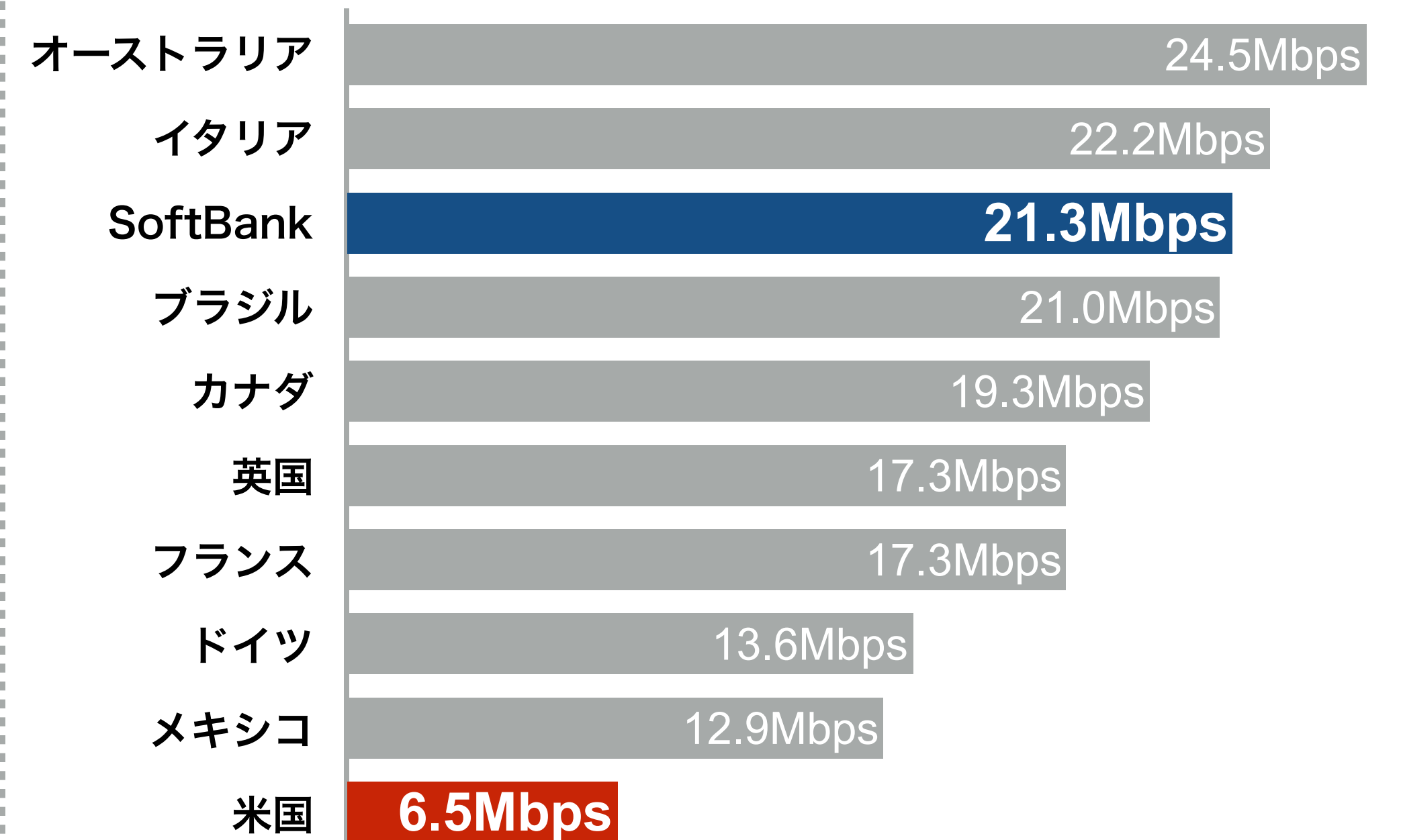
モバイル環境の格差: 日本 vs 米国

1GBあたり単価



高い料金

LTE 通信速度



遅いスピード

ビジョン: 合併でNo.1を目指す



No.3

+



No.4

実現に至らず



+



しかし、

我々はあきらめなかつた



日米の経営陣が徹底的に議論





日本の成功を再現できると確信



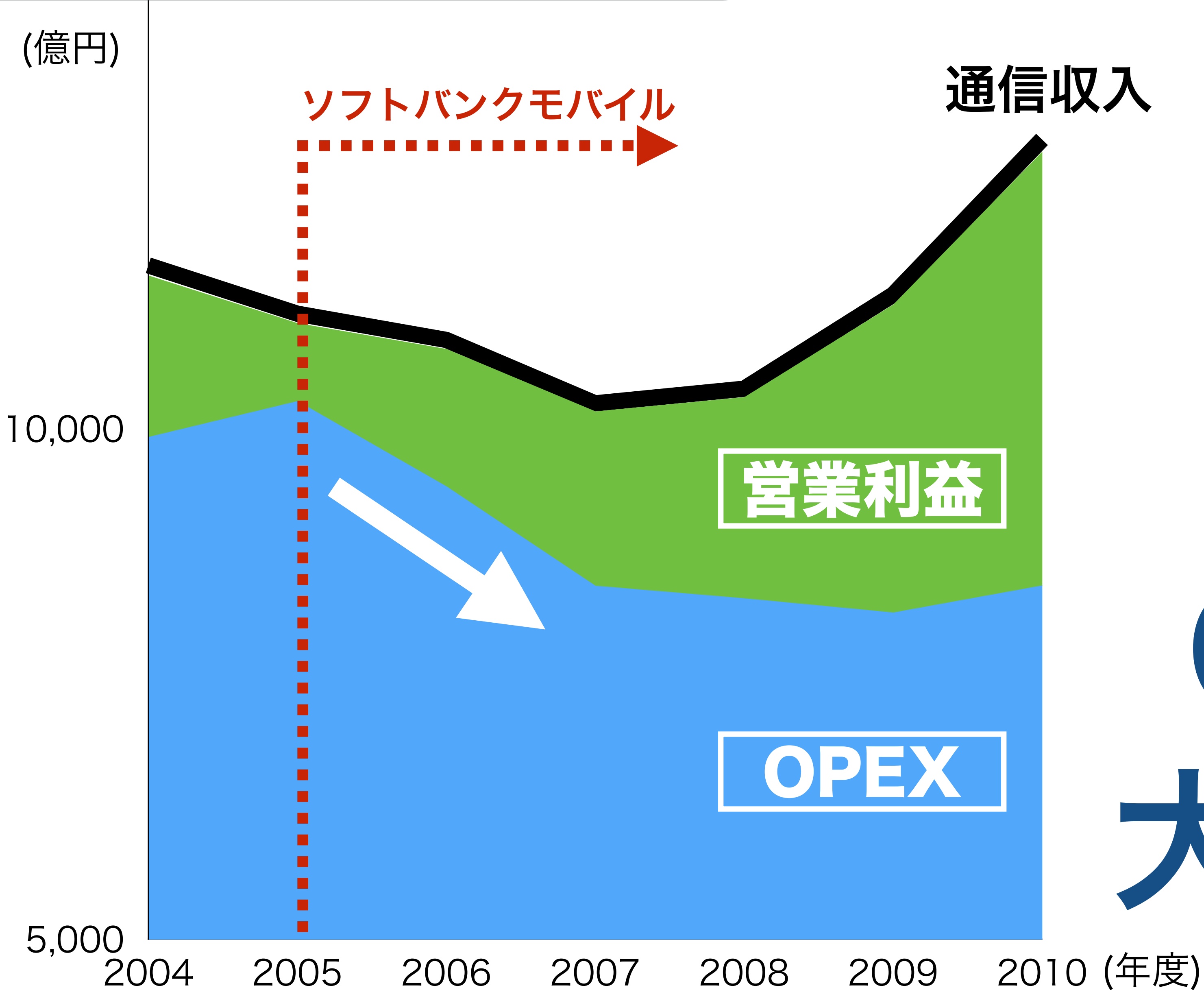
ソフトバンクモバイルの実績

＝ SoftBank

ソフトバンクモバイルの実績

- **OPEXの大幅削減**
- **CAPEXの大幅効率化**

ソフトバンクモバイル



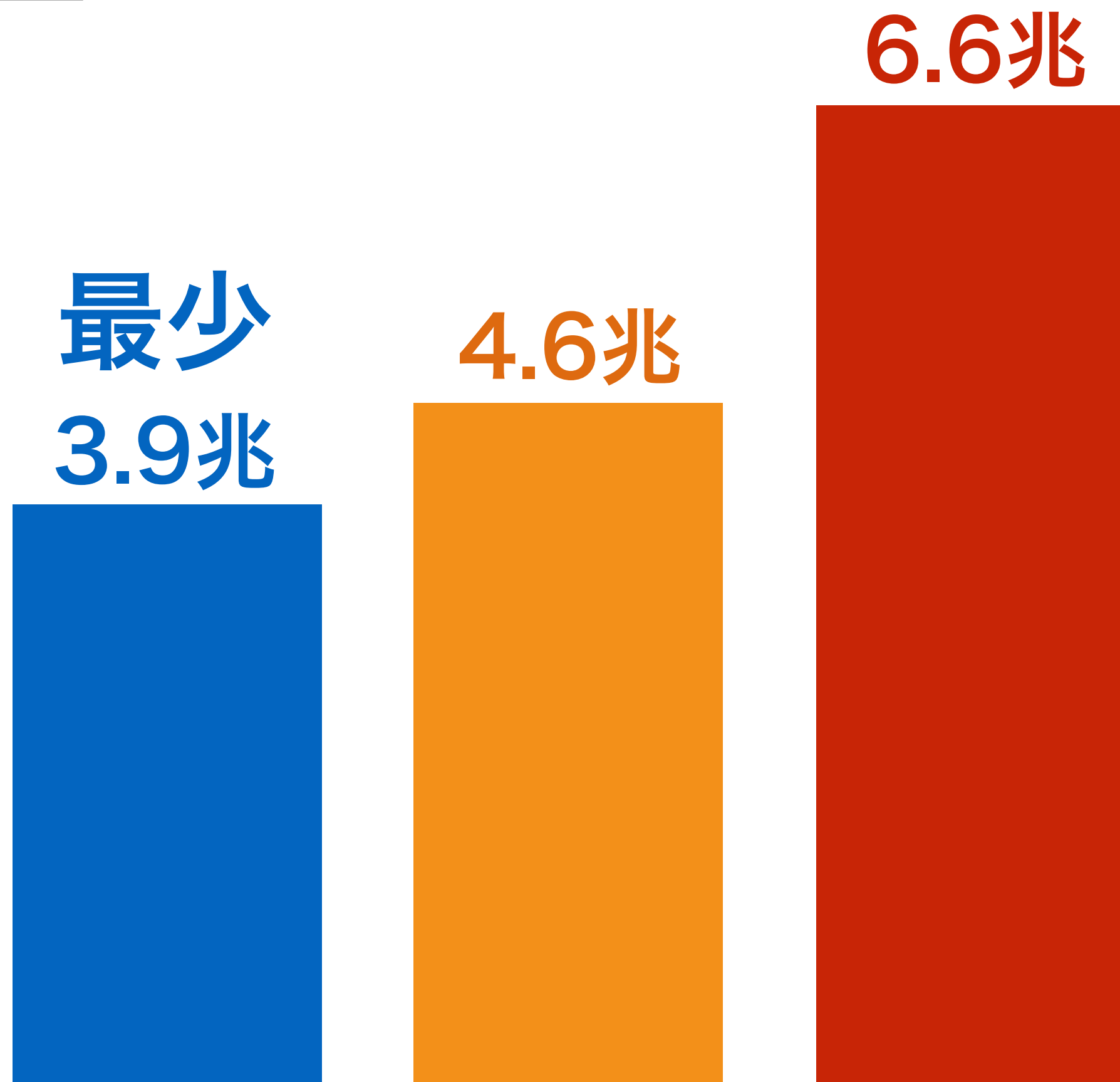
OPEX 大幅削減

ソフトバンクモバイル

設備投資(累積)

(06年度-14年度)

円



ソフトバンク
国内通信*

KDDI

NTTドコモ

* 通信5社の単純合算
(法人向けモバイルレンタル端末を除く)

スマホデータ接続率

99%

高水準

98%

97%

96%

95%

ソフトバンク
98.8%


NTTドコモ
98.2%

au
97.6%

2013年
2月10日

2015年
6月28日

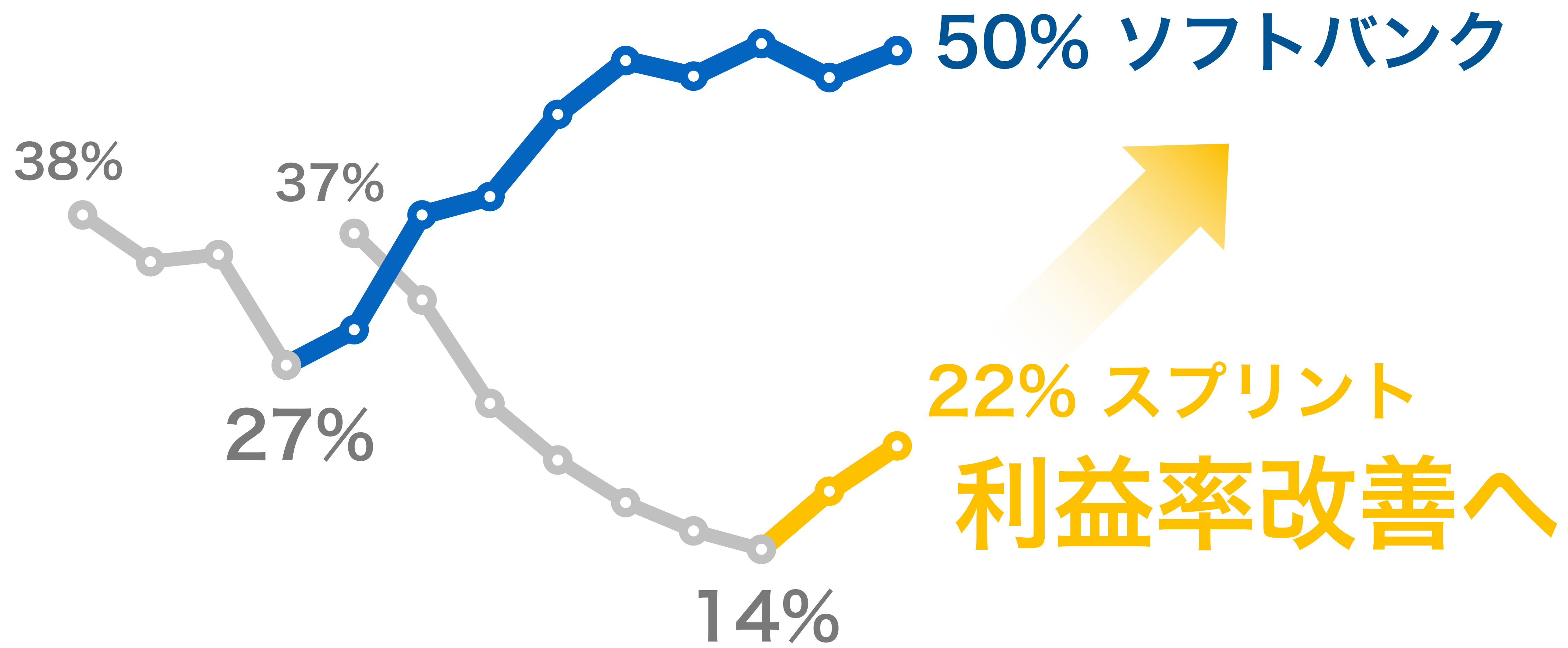
スプリントへ展開

＝ SoftBank → Sprint 

スプリント 本格改善の鍵

- OPEXの大幅削減
- CAPEXの大幅効率化

モバイルEBITDAマージン

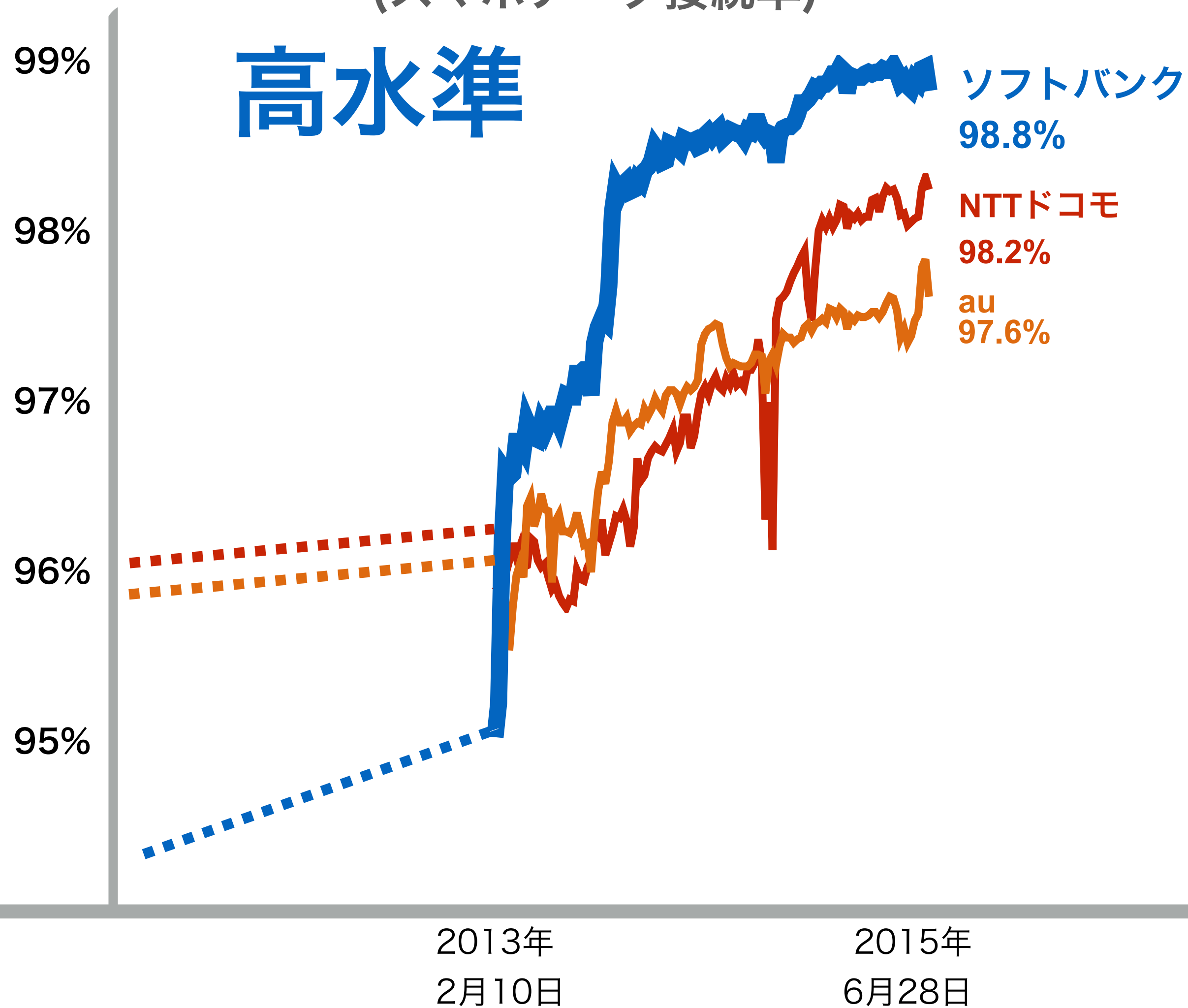


2002 2004 2006 2008 2010 2012 2014 (年度)

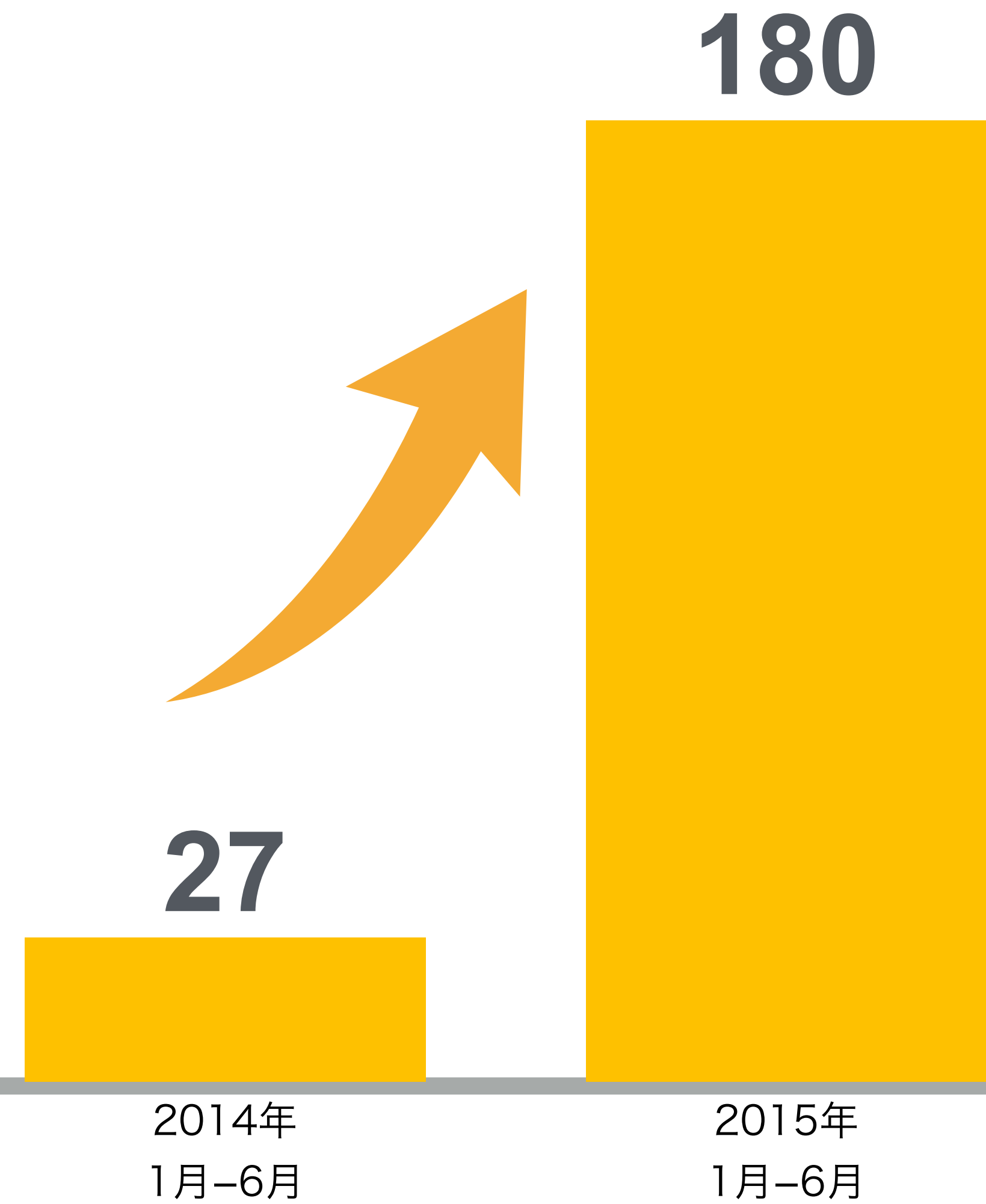
* 2012年度以前は暦年。
2013年度以降は会計年度。 49

ネットワーク品質

ソフトバンク (スマホデータ接続率)



スプリント (RootMetricsアワード数)



販売 / 資金調達方法

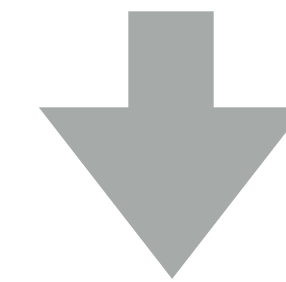
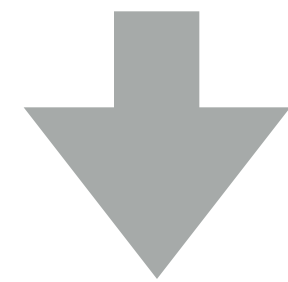
ソフトバンクモバイル

スプリント

端末
販売

割賦

リース



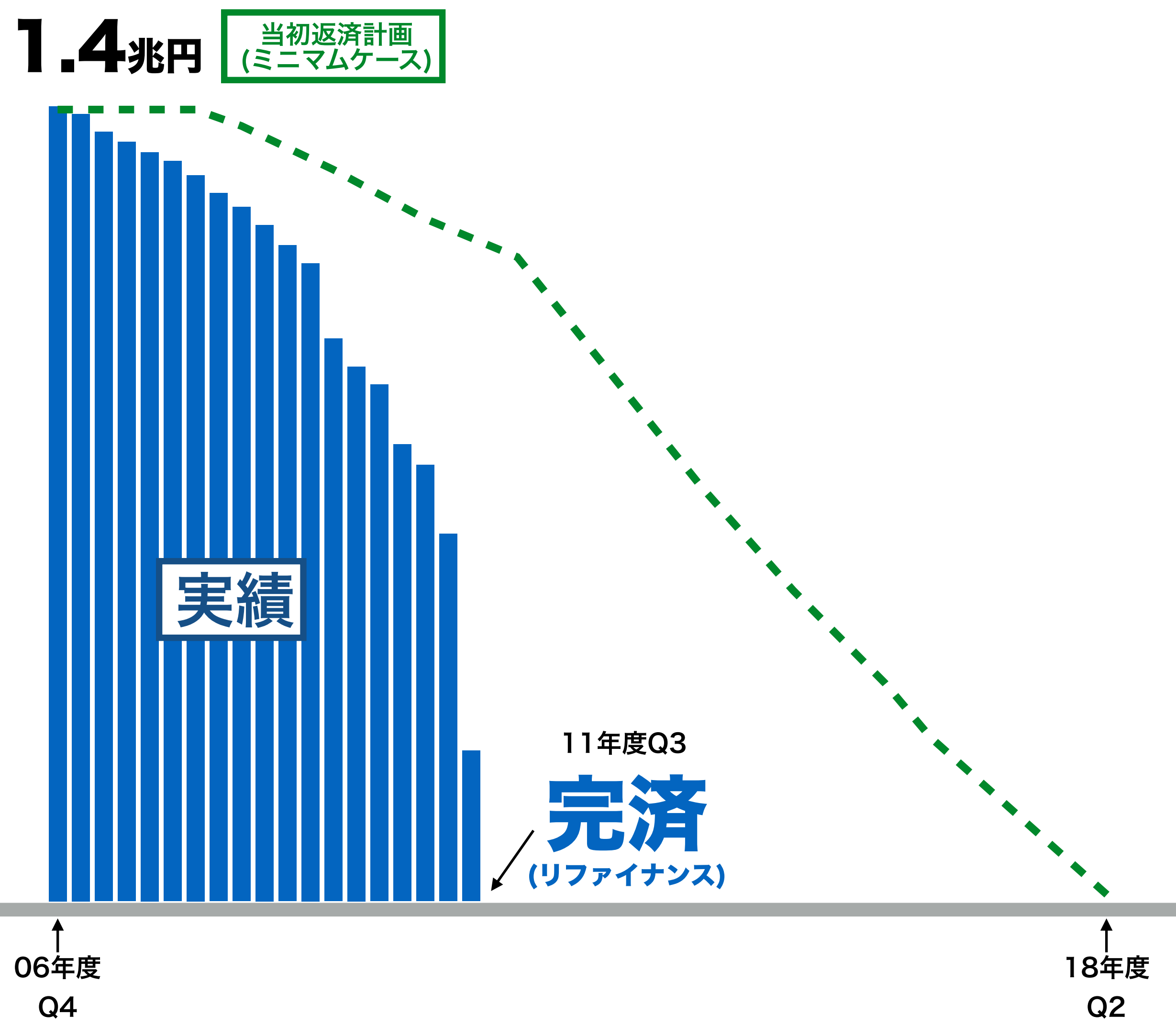
資金
調達

割賦債権
流動化

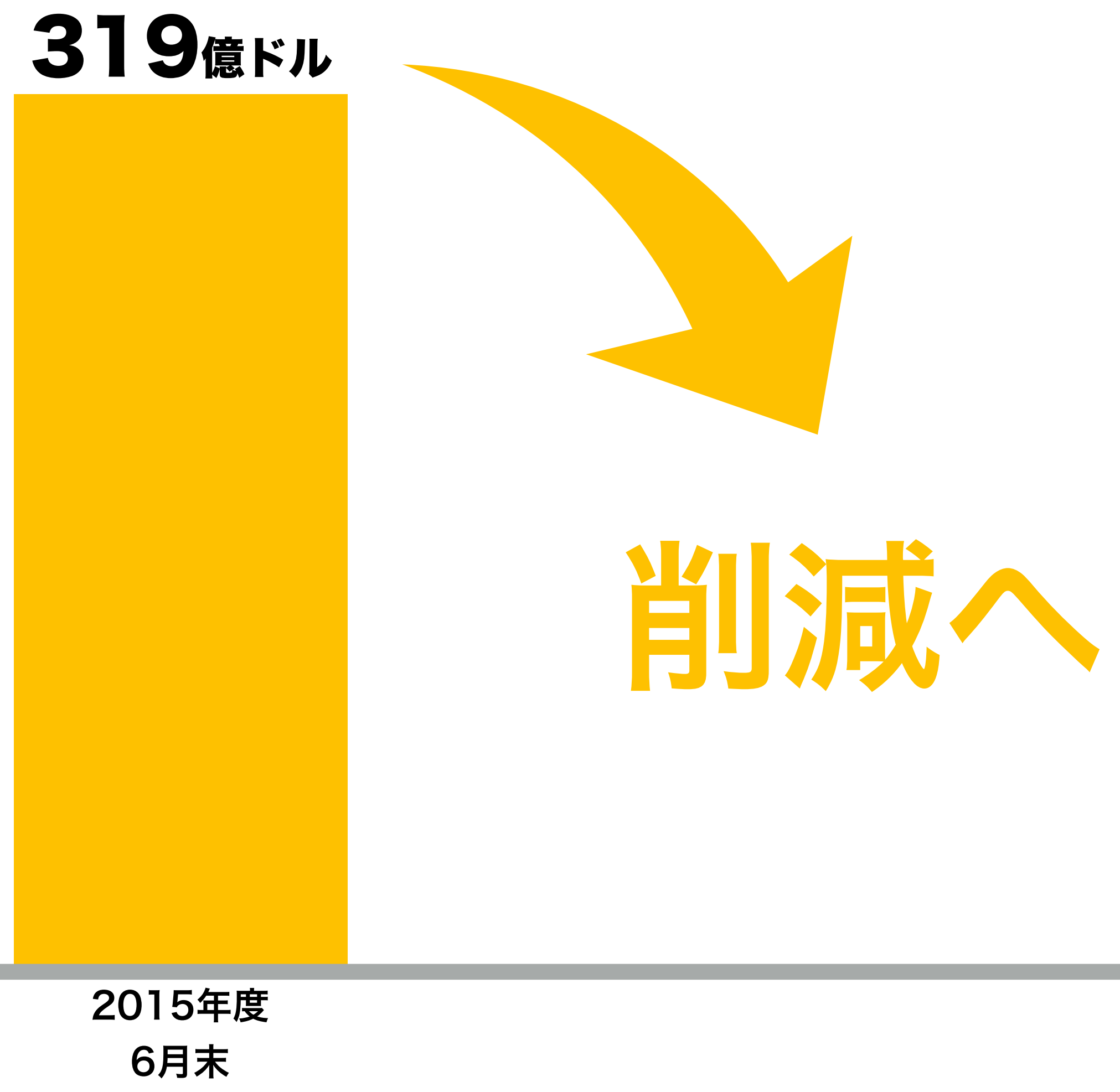
リース
ファイナンス

負債の削減

ボーダフォン買収資金の借入残高

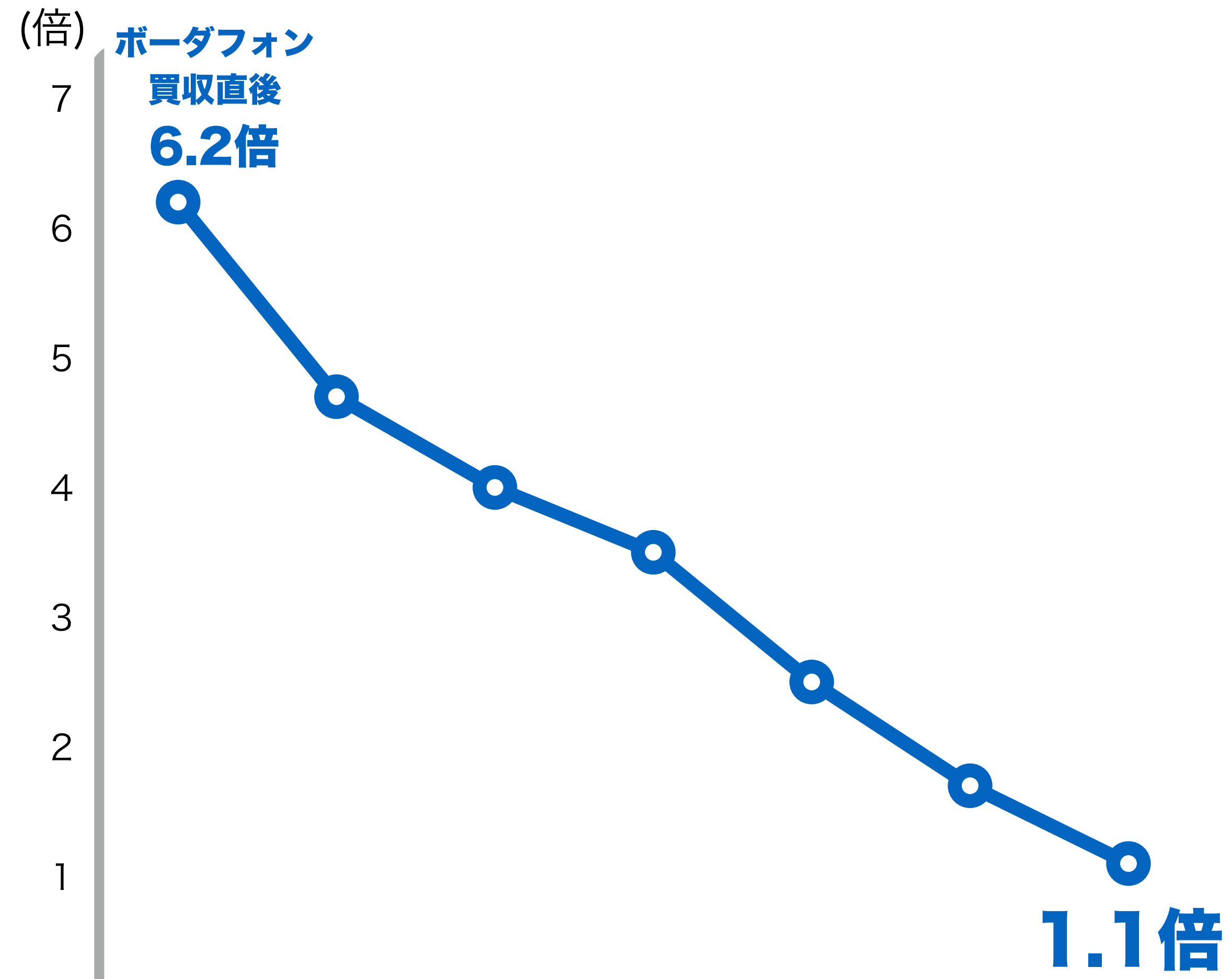


スプリント 純有利子負債



負債の削減 (純有利子負債 / EBITDA倍率)

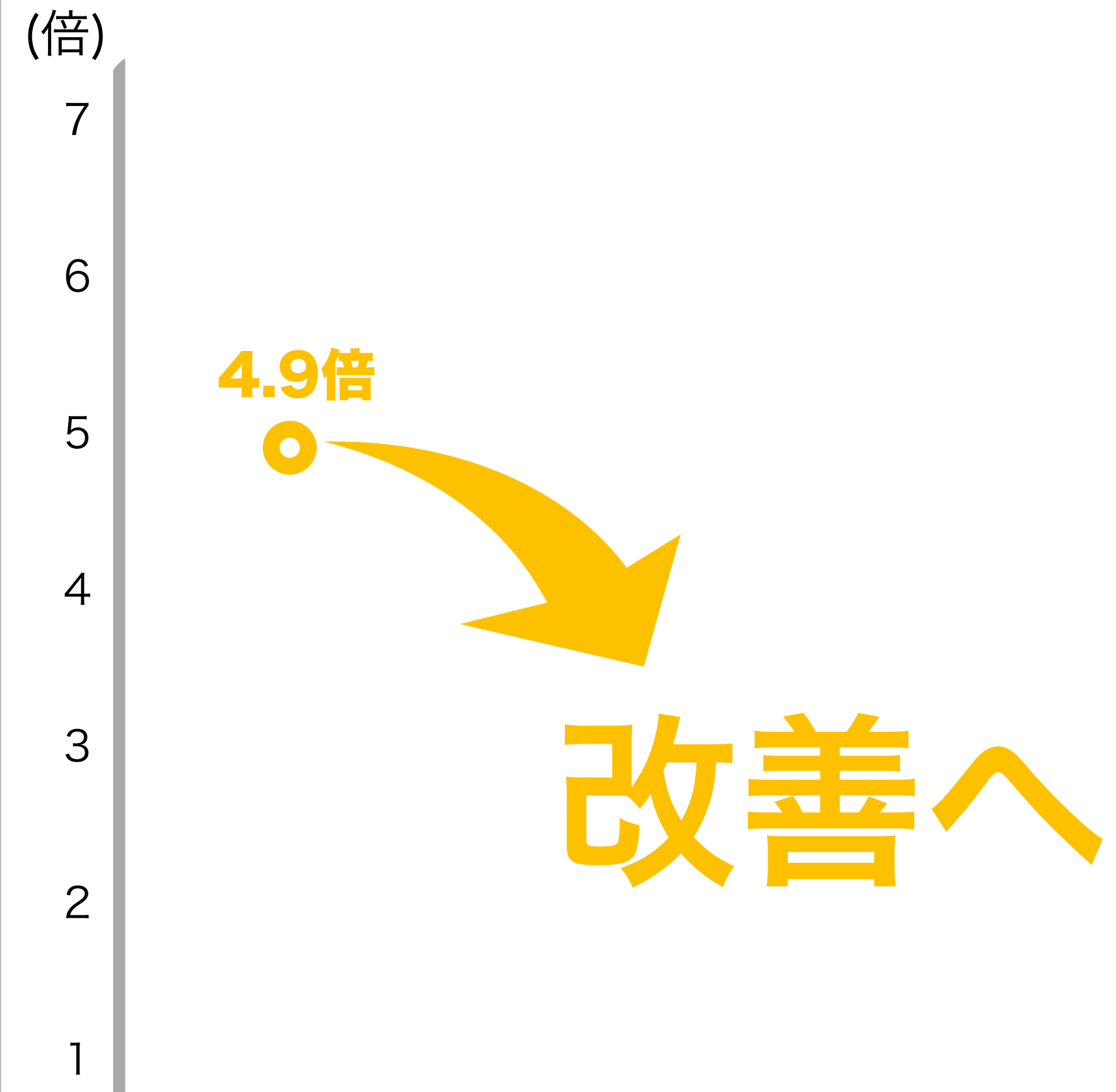
ソフトバンク



2006年 6月 2007年 3月 2008年 3月 2009年 3月 2010年 3月 2011年 3月 2012年 3月

※日本基準 ※リース債務除く

スプリント



2015年 6月

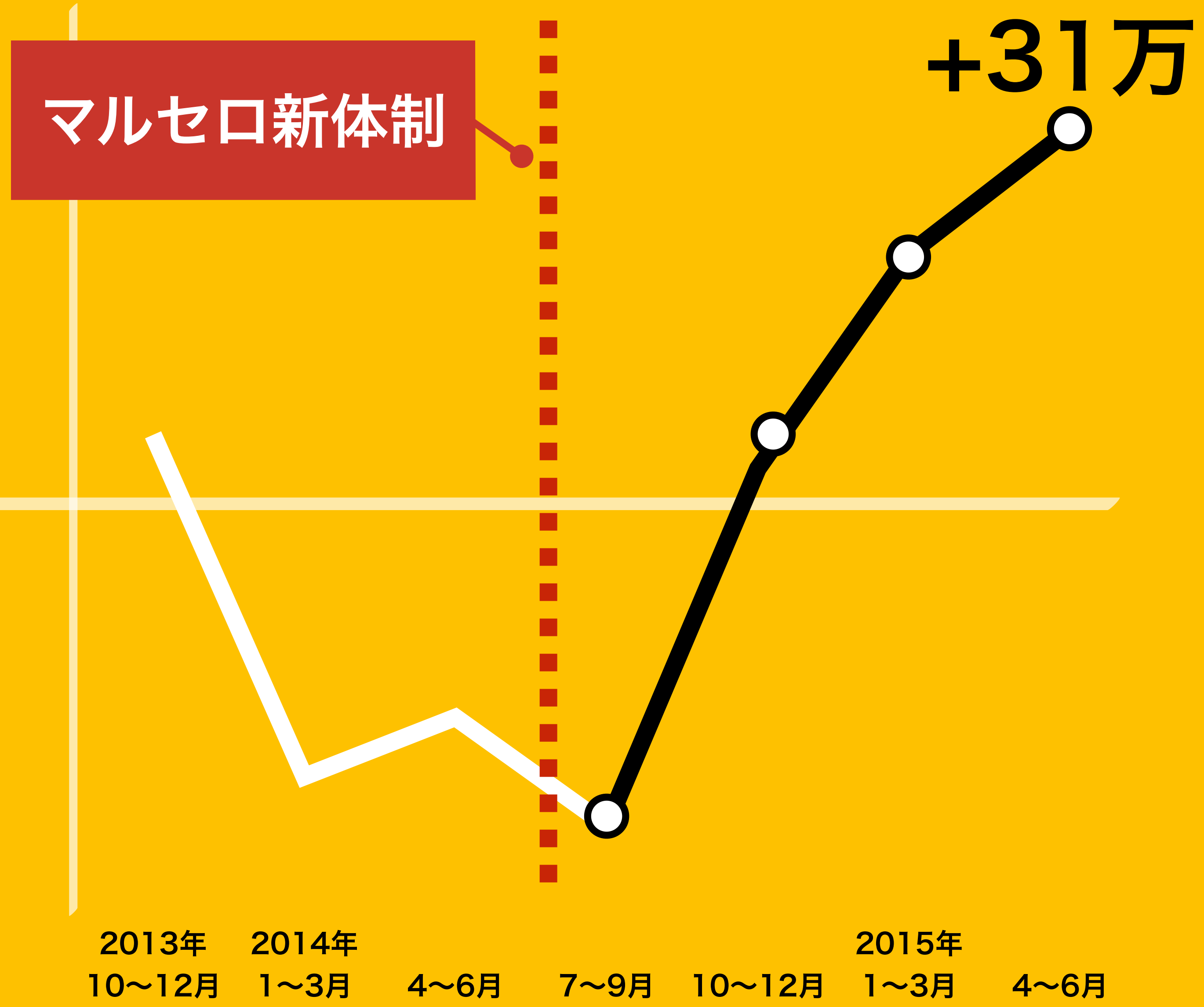
※純有利子負債(2015年6月末) ÷ 直近12カ月のAdjusted EBITDA
 ※ネットプレミアムを除く

改善の兆し

Sprint



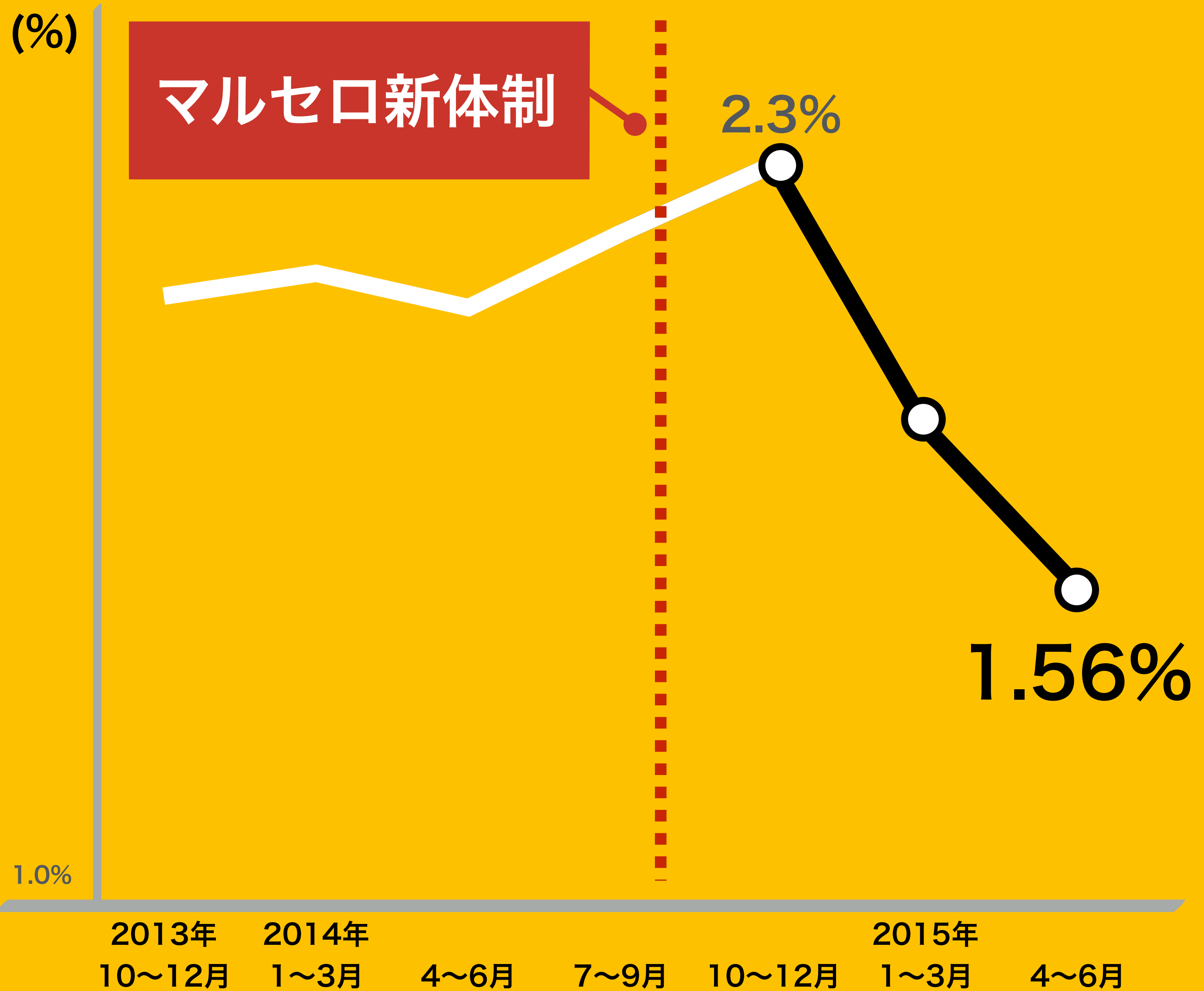
純増数 (ポストペイド)



マルセロ新体制

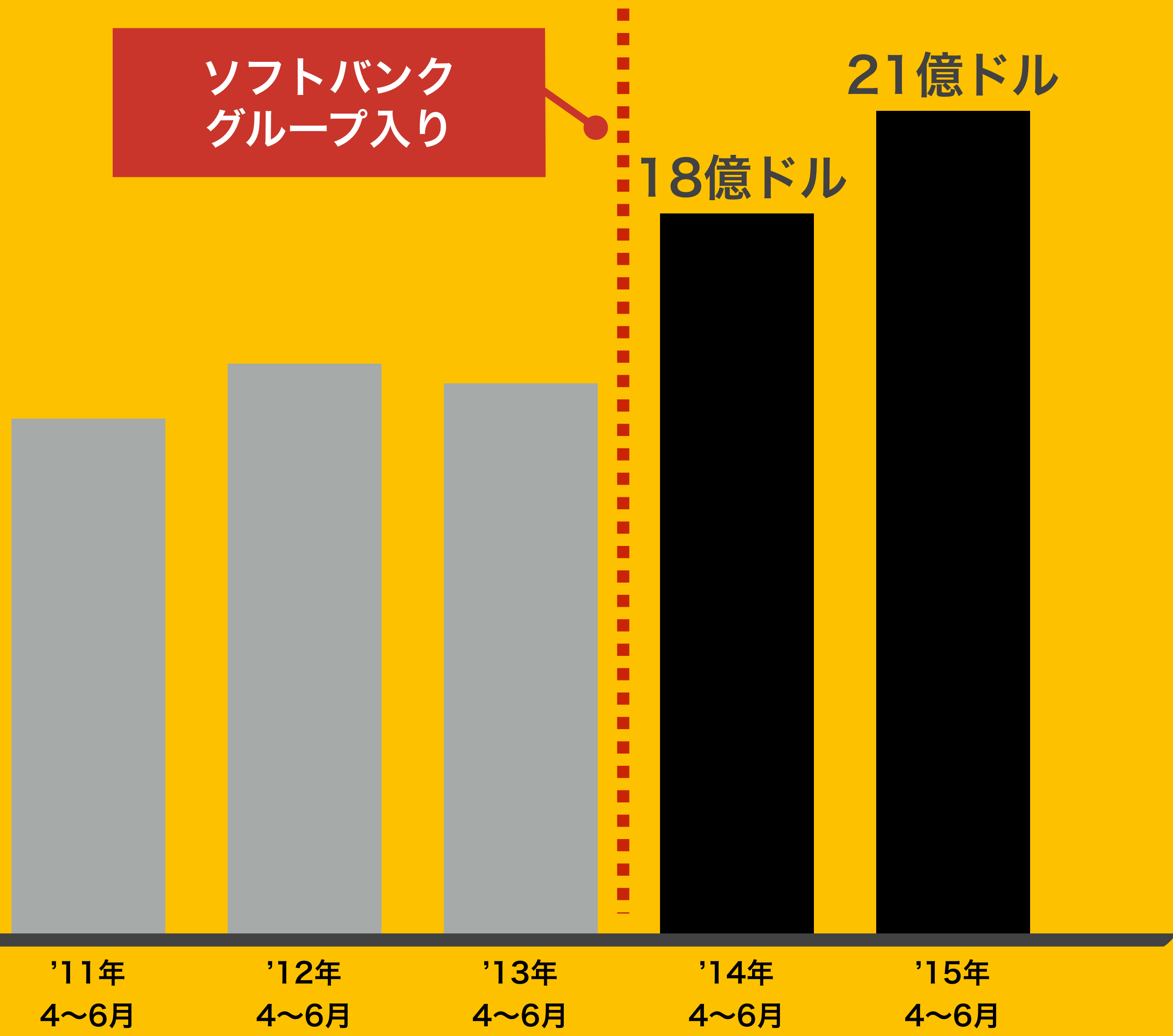
- ▶ 解約率が低下
- ▶ 顧客品質が改善
- ▶ ハンドセット契約が純増に転換(5月/6月/7月)

解約率 (ポストペイド)



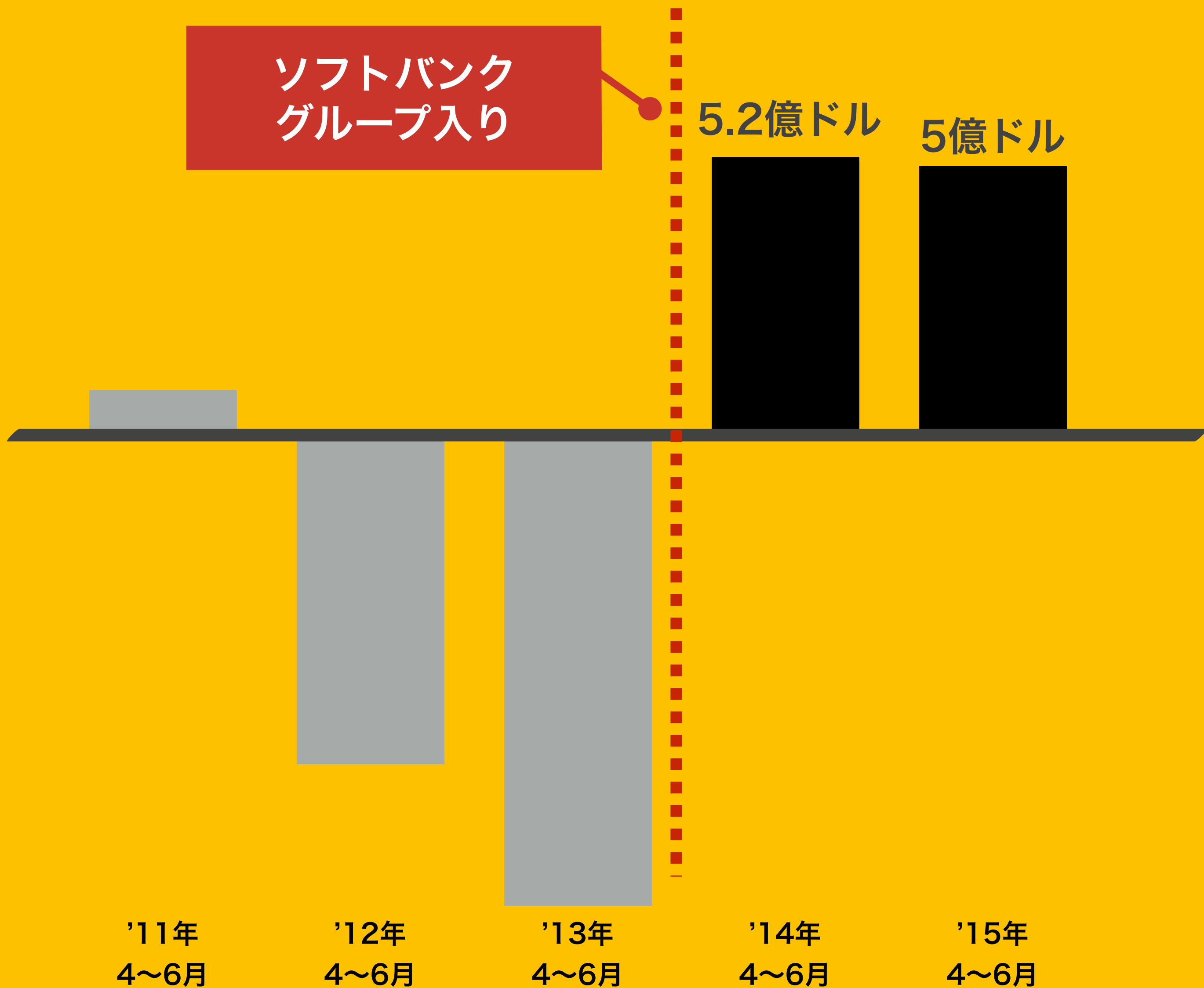
- ▶ 過去最小
- ▶ 顧客品質が改善
- ▶ ネットワーク品質が改善

調整後EBITDA

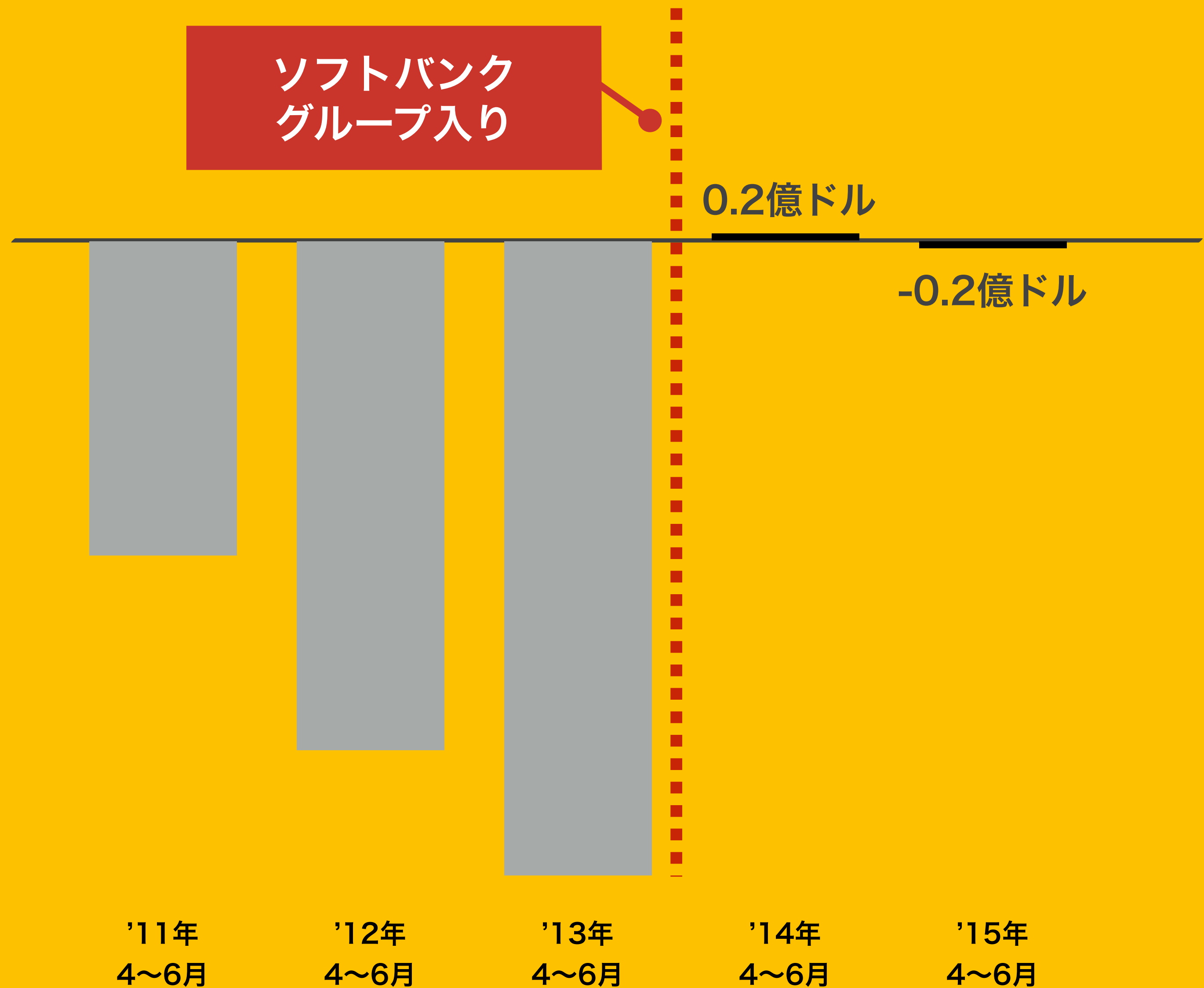


- ▶ 14%増
- ▶ 端末リース販売比率の増加による商品原価の改善
- ▶ サービス費用の削減
(固定通信網、貸倒費用等)

* 割賦販売を含む従来の携帯端末の販売では、端末引渡し時点で商品原価を一括で計上。一方、リース販売方式では、リース資産として計上されるリース端末の減価償却費が、リース期間にわたり計上。



- ▶ 営業黒字化
- ▶ 売上減をコスト減で相殺



主に金利が営業黒字を相殺

スプリント 当面の追加資金調達

1. 社債を増加させない
2. エクイティファイナンスは
行わない

本格改善へ

OPEX
大幅削減

CAPEX
大幅効率化

×

ネットワーク
No.1を目指す

顧客獲得を
強化

結論

改善への光が見えた



必ず改善してみせる

Sprint



ソフトバンクグループ(株) 自己株式の取得

取得する株式総数 20,000,000 株 (上限)

取得価額の総額 1,200 億円 (上限)



1. IFRSの適用について

2013年度よりIFRS（国際会計基準）を適用しています。2012年度についてもIFRSに準拠して表示しています。

2. 本資料中の用語の定義等について

フリーキャッシュフロー(FCF、純現金収支) : 営業活動によるキャッシュフロー+投資活動によるキャッシュフロー

EBITDA(IFRS) : 売上高 - 売上原価 - 販売費及び一般管理費 + 減価償却費及び償却費

EBITDA(日本基準) : 営業損益+減価償却費+のれん償却費

有利子負債(IFRS) : 借入金+社債+リース債務+割賦購入による未払金+コマーシャル・ペーパー+優先出資証券

有利子負債(日本基準) : 借入金+社債+コマーシャル・ペーパー。リース債務を含まず。

純有利子負債 : 有利子負債-手元流動性

「過去最高」「最高益」は、当社が連結決算を開始した1994年度以降。

3. 登録商標・商標について

本資料に掲載されている会社名、ロゴ、製品名、サービス名およびブランドなどは、ソフトバンクグループ株式会社または該当する各社の登録商標または商標です。

本資料の一部あるいは全体について、当社の許可なく複製および転載することを禁じます。

- iPhone、iPadはApple Inc.の商標です。

- iPhone商標はアイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。